

<自主研究>

7月26日 宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査
調 査 報 告 書

平成 1 5 年 9 月

 **株式会社サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

<自主研究>

7月26日 宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査
調 査 報 告 書

平成 1 5 年 9 月

目 次

I. 調査概要	1
II. 調査結果のまとめ	5
III. 回答者の属性	7
IV. おもな調査結果	9
1. 地震発生時にいた場所	9
2. 地震発生時にしていたこと	10
3. 揺れている間の行動	11
4. 地震情報の入手経路	13
5. 連絡を取った人	14
6. 通信手段	15
7. 地震に関するインターネット情報	21
8. 地震で困ったこと	22
9. 災害用伝言ダイヤル(171)	23
10. テレビ・ラジオの地震情報の評価	25
11. 余震予測	26
12. 5月26日以降の地震対策	27
13. 想定される「宮城県沖地震」について	29
14. 今回の地震の被害意識	31
15. 今後の防災意識	31
V. 調査票(単純集計結果)	32
VI. 自由回答	42
付. KNOTsの案内	
付. サーベイリサーチセンターの業務案内	

1. 調 査 概 要

1. 調査概要

1. 調査目的

7月26日に発生した宮城県北部を震源とする地震について、地震発生直後の住民の意識や行動を把握すると共に、5月実施の「5月26日宮城県沖の地震に関するアンケート調査」での住民の意識や行動をパネル調査を通じて比較することで、今後の防災のあり方や住民の防災対策に役立てる基礎的な資料を提供する。

※本調査では先に実施した「5月26日宮城県沖の地震に関するアンケート調査」の回答者を調査対象者として、意識や行動に対する比較を行った。

2. 調査設計

① 調査地域

岩手県、宮城県

② 調査方法

インターネットリサーチパネル「KNOTs」を利用したオンライン調査

③ 調査対象者

岩手県、宮城県に居住する「KNOTs」会員（家族会員含む）で、5月に実施した「5月26日宮城県沖の地震に関するアンケート調査」での回答者464名

④ 調査対象数（配信数）

配信数 464s（岩手県108s、宮城県356s）

有効回収数 379s（岩手県 97s、宮城県282s）

回収率 81.7%（岩手県89.8%、宮城県79.2%）

⑤ 調査期間

8月8日（金）～8月11日（月）

⑥ 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

■ 自主調査「5月26日宮城県沖の地震に関するアンケート調査」 調査概要

① 調査地域 : 岩手県、宮城県（今回調査と同様）

② 調査方法 : インターネットリサーチパネル「KNOTs」を利用したオンライン調査（今回調査と同様）

③ 調査対象者 : 岩手県、宮城県に居住する「KNOTs」会員（家族会員含む）

④ 調査対象数 : 配信数 1323s（岩手県338s、宮城県985s）
: 有効回収数 464s（岩手県108s、宮城県356s）
: 回収率 35.1%（岩手県32.0%、宮城県36.1%）

⑤ 調査期間 : 5月28日（水）～5月29日（木）

⑥ 調査実施機関 : 株式会社サーベイリサーチセンター

3. 調査内容

★ 1	地震発生時にいた場所	問1
2	地震発生時にしていたこと	問2
★ 3	揺れている間の行動	問3
★ 4	地震情報の入手経路	問4
★ 5	連絡を取った人	問5
★ 6	通信手段	問6～問9
★ 7	地震に関するインターネット情報	問10
★ 8	地震で困ったこと	問11
★ 9	災害用伝言ダイヤル(171)	問12
★ 10	テレビ・ラジオの地震情報の評価	問13
11	余震予測	問14～16
12	5月26日以降の地震対策	問17
★ 13	想定される「宮城県沖地震」について	問18
★ 14	今回の地震の被害意識	問19
★ 15	今後の防災意識	問20
	自由回答	問21

※ ★ 印は、「5月26日宮城県沖の地震に関するアンケート調査」と同一質問

4. 集計にあたって

- ・ 集計は、回答者数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入している。このため、回答率の合計が、単数回答設問でも100%にならない場合がある。
- ・ グラフ中の「n」は基数で、その質問に回答すべき人数を表す。
- ・ 本調査は、2003年5月26日に行った前回調査の有効回答者に対し、引き続き調査をするパネル調査である。従って、集計対象を今回調査の有効回答者とすることから、本報告書に掲載される前回調査の結果は前回の報告書の結果と異なる。

5. 7月26日に起きた地震について

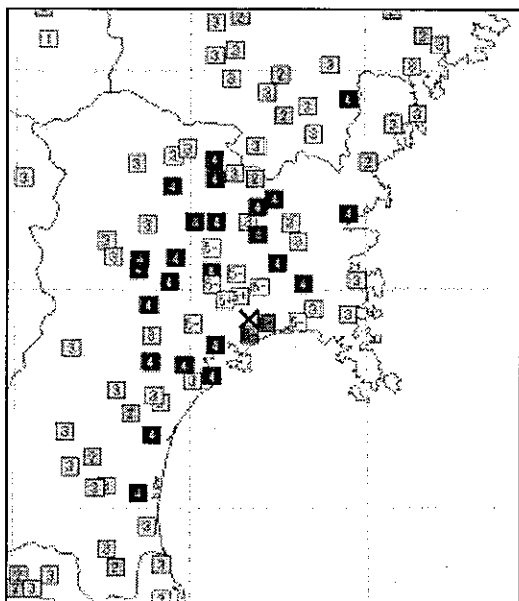
①概要

2003年7月26日07時13分、宮城県北部の深さ12kmでM6.2の地震が発生し、宮城県の南郷町、矢本町、鳴瀬町で震度6強を観測したほか、北海道の南部から関東甲信越地方にかけて震度1～6弱を観測した。この地震の7時間前の00時13分には、北約5km、深さ12kmでM5.5の地震が発生し、宮城県の矢本町、鳴瀬町で震度6弱を観測したほか、東北地方から関東北部にかけて震度1～5強を観測した。この00時13分に発生した地震は、07時13分に発生したM6.2の地震の前震と考えられる。さらに約9時間後の16時56分、M6.2の地震の北約15km、深さ12kmで7月末現在で最大余震となるM5.3の地震が発生し、宮城県の河南町で震度6弱を観測したほか、東北地方から関東北部にかけて震度1～5強を観測した。

これらの地震により、負傷者647人、全壊家屋243棟、半壊家屋1241棟等の被害が発生した(7月31日現在、総務省消防庁による)。被害は、主に地震による揺れによるものであった。なお、この地震による津波は観測されなかった。

②震度分布

■第一回(前震) <2003年7月26日00時13分08.3秒 北緯38°25.8' 東経141°10.0' 深さ 12km M5.5(暫定値)>



震度6弱

宮城県 矢本町 鳴瀬町

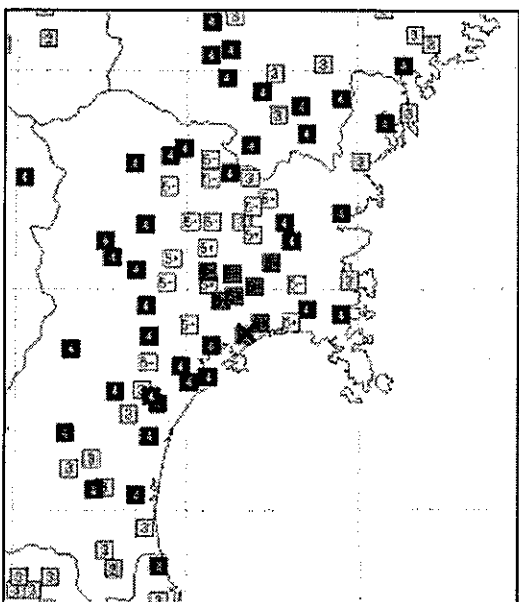
震度5強

宮城県 鹿島台町 南郷町

震度5弱

宮城県 石巻市 大郷町 松山町
涌谷町 田尻町 河南町

■第二回(本震) <2003年7月26日07時13分31.5秒 北緯38°24.1' 東経141°10.4' 深さ 12km M6.2(暫定値)>



震度6強

宮城県 南郷町 矢本町 鳴瀬町

震度6弱

宮城県 鹿島台町 涌谷町 小牛田町
河南町 桃生町

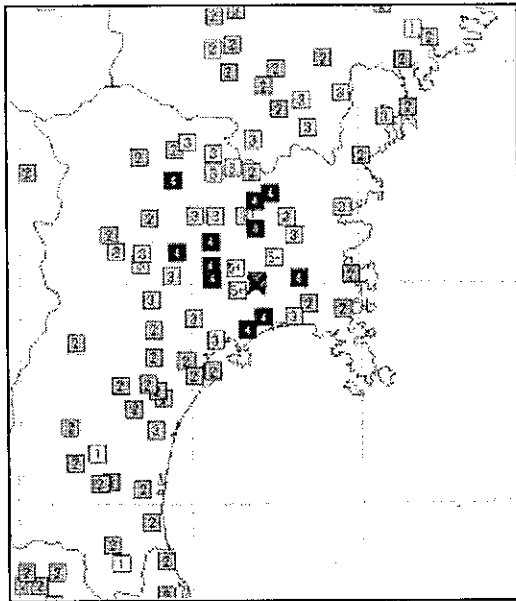
震度5強

宮城県 石巻市 古川市 松山町
田尻町 米山町

震度5弱

宮城県 大郷町 高清水町 一迫町
瀬峰町 金成町 志波姫町
迫町 河北町 三本木町
仙台市

■第三回(余震) <2003年7月26日16時56分44.5秒 北緯38°29.8' 東経141°11.5' 深さ12km M5.3(暫定値)>



震度6弱

宮城県 河南町

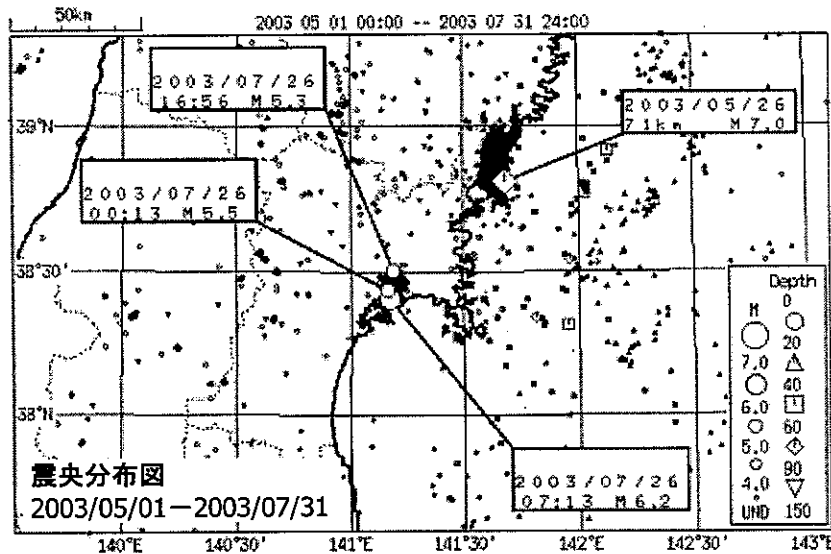
震度5強

宮城県 涌谷町 南郷町

震度5弱

宮城県 桃生町

③最近の宮城県周辺の地震活動と今回の地震



■5月26日の地震について

2003年5月26日午後6時24分頃、宮城県沖を震源(深さ約71km)とするマグニチュード(M)7.0(気象庁暫定値)の地震が発生した。

この地震により、岩手県、宮城県で震度6弱を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度1～震度5強を観測した。

なお、この地震による津波は観測されなかった。

※②「震度分布」、③「震央分布図」は気象庁より提供

II. 調査結果のまとめ

II. 調査結果のまとめ

東洋大学 社会学部 助教授 中村 功

1. 調査の目的

本調査は、7月26日に発生した宮城県北部を震源とする地震について、住民の意識と行動を明らかにするために行った調査である。しかし、本調査の対象者は、2003年5月26日に宮城県沖で発生した地震について同社が行った調査と同一で、連続して発生した地震を前に、住民の意識や行動がどう変化していったのか、を明らかにすることがもう一つの重要な目的である。すなわち、5月、7月と連続して起きた地震が、住民の防災意識を高め、より適切な行動へと導くのか、それとも、いわば「地震慣れ」のような状況をひき起こし、せっかくの経験が生かされていないのか、という問題である。

2. 調査方法

前回と同様に、本調査はモニターを使ったオンライン調査で行われた。前回の回答者に前回と同様の質問も含めてしているので、いわゆる「パネル調査」といえる。パネル調査は、意見・態度・行動の変化、およびその原因を知るのに適した方法である。オンライン調査ということで、前回同様、インターネット利用者による対象者の偏りには注意する必要がある(とくに30代を中心とする若年層が多くなっている)。

3. とっさの行動

7月の本震(本報告書では「第二回」)時にとられた行動(累計)は、「じっと様子を見ていた」が70.4%ともっとも多く、その数字は5月の65.2%に比べて若干増えている。その一方、「火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした」人は16.9%(5月時32.7%)、「安全な場所に隠れたり、身を守ったりした」人は7.4%(5月時24.3%)と、適切な行動をとった人は減少している。今回は地震が朝で、床についていた人が多かったこと、前回の地震に比べ調査地域全体として揺れが少なめだったこと等、いくつかの原因が考えられるが、いずれにしても、前回の地震から対応が進歩したという形跡はまったくみられない。

4. 地震対策

調査対象者がとった主な地震対策は「家具や品物の固定・整理」である。5月の地震以前からこれを行っていた人は19.3%で、とられた対策のなかでもっとも多かったが、5月の地震をきっかけにさらに25.3%の人がこの対策を行った。しかし両者を足しても対策済みの人は半数以下にとどまっている。他の対策を地震以前にしていたり、また地震をきっかけに始めた人は少なく、約半数(48.8%)が5月の地震をきっかけに何も対策をしなかったと答えている。とくに、前回の宮城県沖地震で問題になったブロック塀だが、「建物・塀の補強・改修」をしている人は、5月以前が1.8%、5月以降が1.6%と、ほとんど対策が進んでいない。5月の地震で、家庭の地震対策は若干進んだといえるが、対策を実施した人の数、及び対策の種類ともにきわめて不十分なものになっている。

5. 危機意識

来るべき「宮城県沖地震」に対する不安意識は、今回は前回の調査よりわずかに高まっている。すなわち「非常に不安に思う」という人は0.3%減ったが、「多少不安に思う」という人が4.9%増えた。しかし驚くべきことに、「今後、防災準備をしようと思う」とする人は、若干だが、減少していた(前回87.1%、今回は84.7%)。不安意識が防災対策に結びついておらず、せつかくの地震体験が、防災に十分生かされていないようだ。地震を経験することで一部には「慣れ」とか「開き直り」的な心理が芽生えているのではないかと心配される。

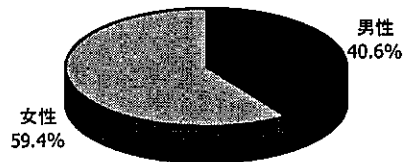
6. 情報

5月の地震でもっとも困ったとされたのは、電話や携帯電話が使えなかったことであった(それぞれ53.6%、65.4%)。しかし今回は電話が使えなかったことをあげた人が11.3%、携帯電話・PHSが使えなかったことをあげた人が10.6%と大幅に減少している。これは、激しい揺れが郊外の比較的狭い範囲にとどまっていたために、通話量がそれほど増えなかったためであろう。

III. 回答者の属性

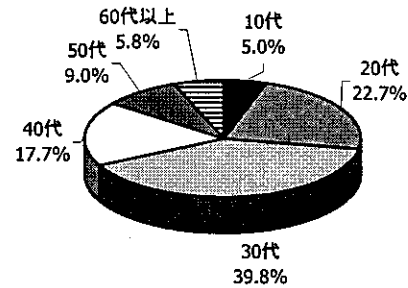
Ⅲ. 回答者の属性

F1. 性別



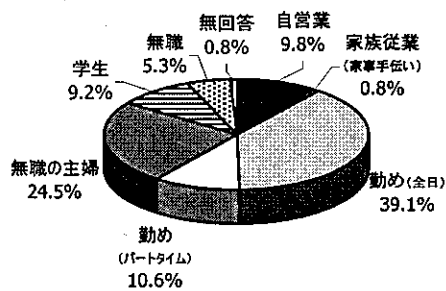
n=379

F2. 年齢



n=379

F3. 職業



n=379

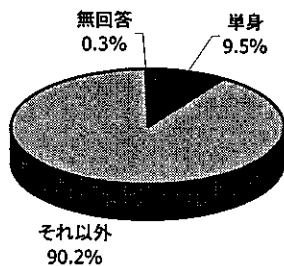
■「自営業」「家族従業」の仕事内容(n=40)

【仕事内容】	【%】
農林漁業	-
商工・サービス	30.0
自由業	40.0
無回答	30.0

■「勤め」の仕事内容(n=188)

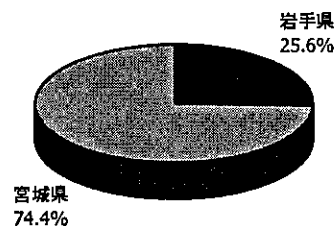
【仕事内容】	【%】
経営・管理職	6.4
専門・技術職	28.7
事務職	27.7
労務・技能職	6.9
販売・サービス業	18.6
無回答	11.7

F4. 家族形態



n=379

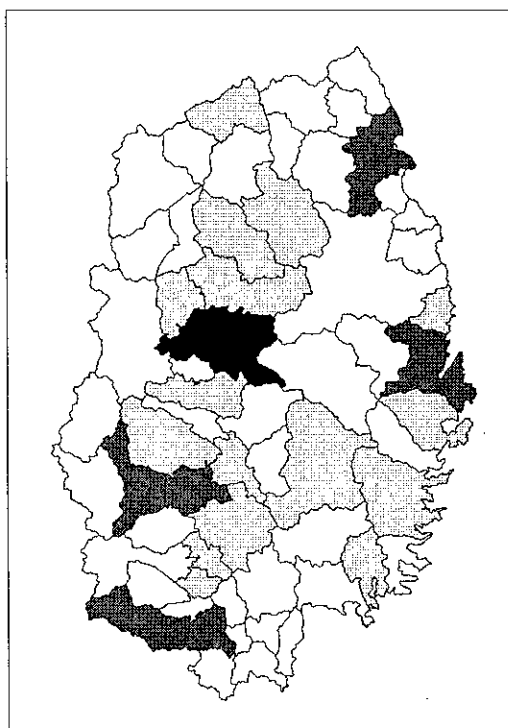
F5. 居住地



n=379

F5. 居住地(市町村別)

■岩手県

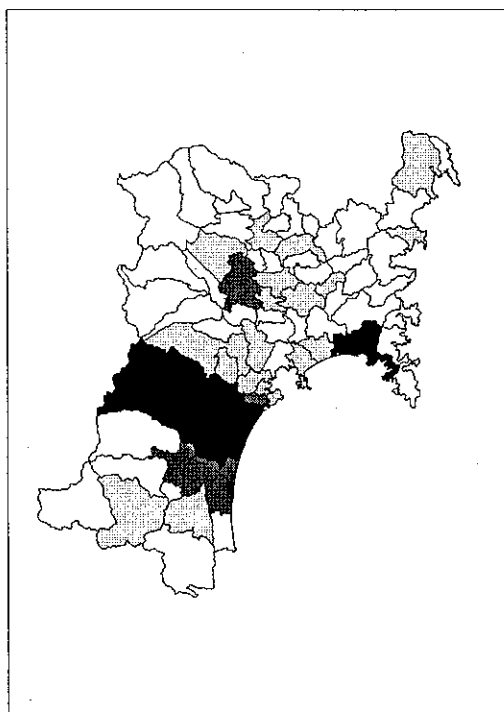


回答者が居住している市町村

□ 5人未満が居住	(16)
■ 5人以上10人未満が居住	(4)
■ 10人以上が居住	(1)

※ 回答者のうち市町村不明は7s

■宮城県



回答者が居住している市町村

□ 5人未満が居住	(19)
■ 5人以上10人未満が居住	(6)
■ 10人以上が居住	(3)

※ 回答者のうち市町村不明は4s

IV. おもな調査結果

IV. おもな調査結果

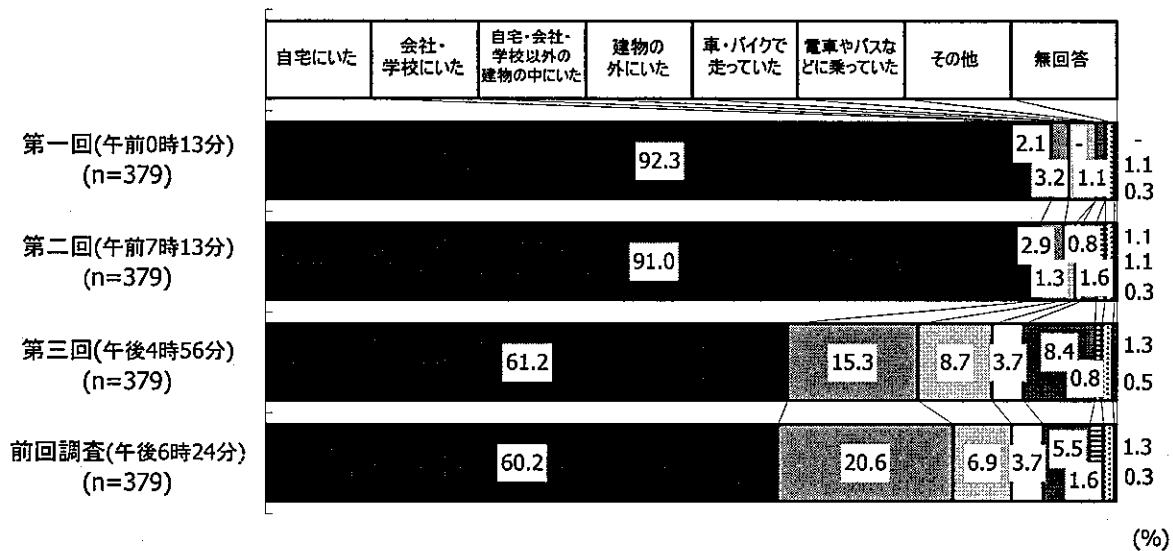
1 地震発生時にいた場所

8割以上が屋内で体験

第一回目、第二回目の地震では「自宅にいた」が9割を超える。第三回目の地震では「自宅にいた」が6割(61.2%)を占め、「会社・学校にいた」(15.3%)、「自宅・会社・学校以外の建物の中にいた」(8.7%)を合わせた85.2%が屋内で地震を体験している。

ちなみに、第三回目の地震の時にいた場所の内訳と前回調査の内訳とは類似している。

Q1. あなたは地震発生時、どこにいましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、ひとつずつお選び下さい。



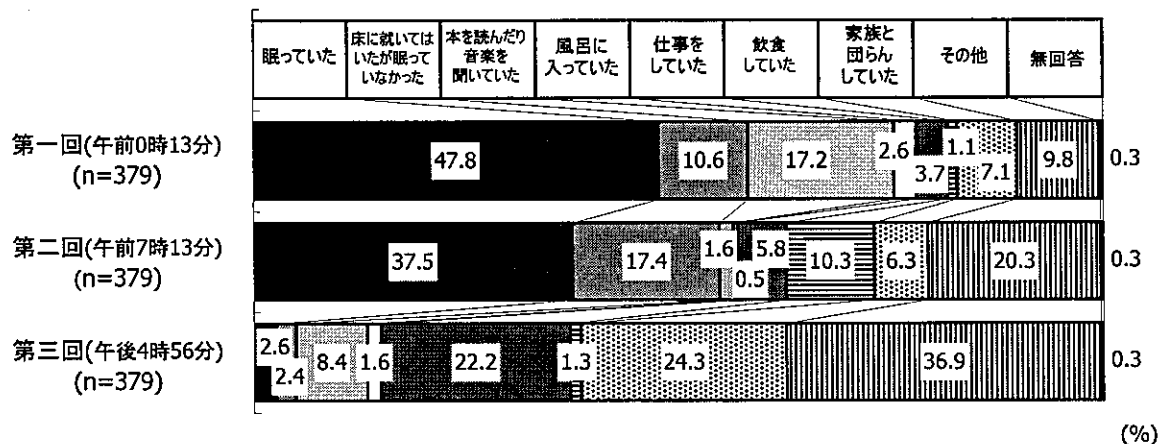
2 地震発生時にしていたこと

前震(第一回)と本震(第二回)は半数以上が床についていた

第一回目の地震では、午前0時に地震が発生したため「眠っていた」が約半数を占める。第二回目の地震でも「眠っていた」が37.5%と最も多く、これに「床に就いていたが眠っていなかった」(17.4%)を合わせると54.9%と半数以上が床についていたことになる。

第三回目の地震では、「家族と団らんしていた」(24.3%)と「仕事をしていた」(22.2%)がともに2割を超えて多い。

Q2. あなたはこの地震が起きたとき、何をしていましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、ひとつずつお選び下さい。



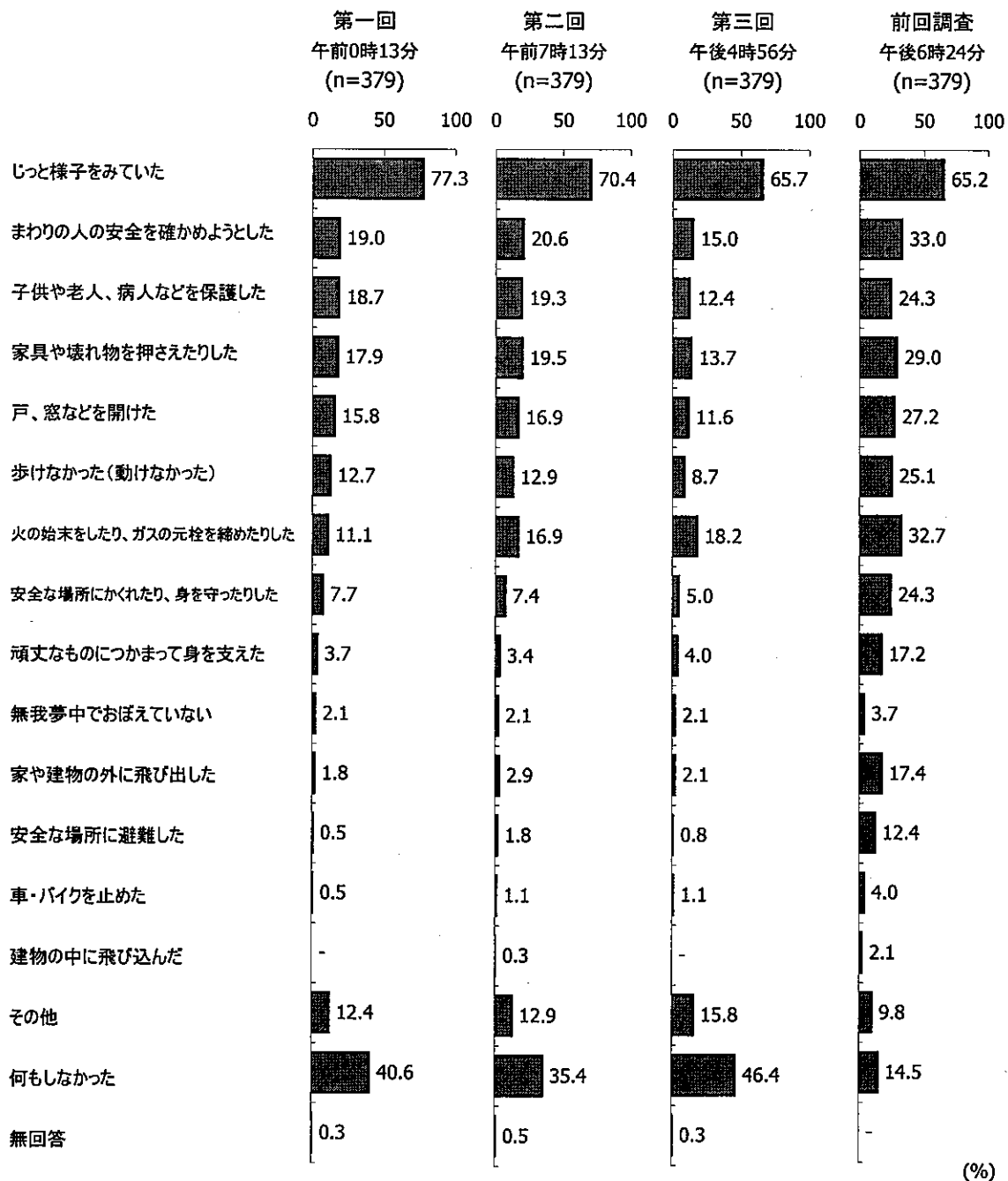
3 揺れている間の行動

「じっと様子をみていた」が6割半ばから8割近く

揺れがおさまるまでの行動については、第一回目から第三回目までのすべての地震で、「じっと様子をみていた」が6割半ばから8割近くでトップを占める。次いで「何もしなかった」は前回調査では1割台半ばだったのが、第一回目から第三回目までは3割半ばから4割半ばとなっている。

なお前回調査をみると、今回調査と同様、「じっと様子をみていた」が最も多い。

Q3. あなたは地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、一番はじめに行なった行動から順に3つまでお選び下さい。

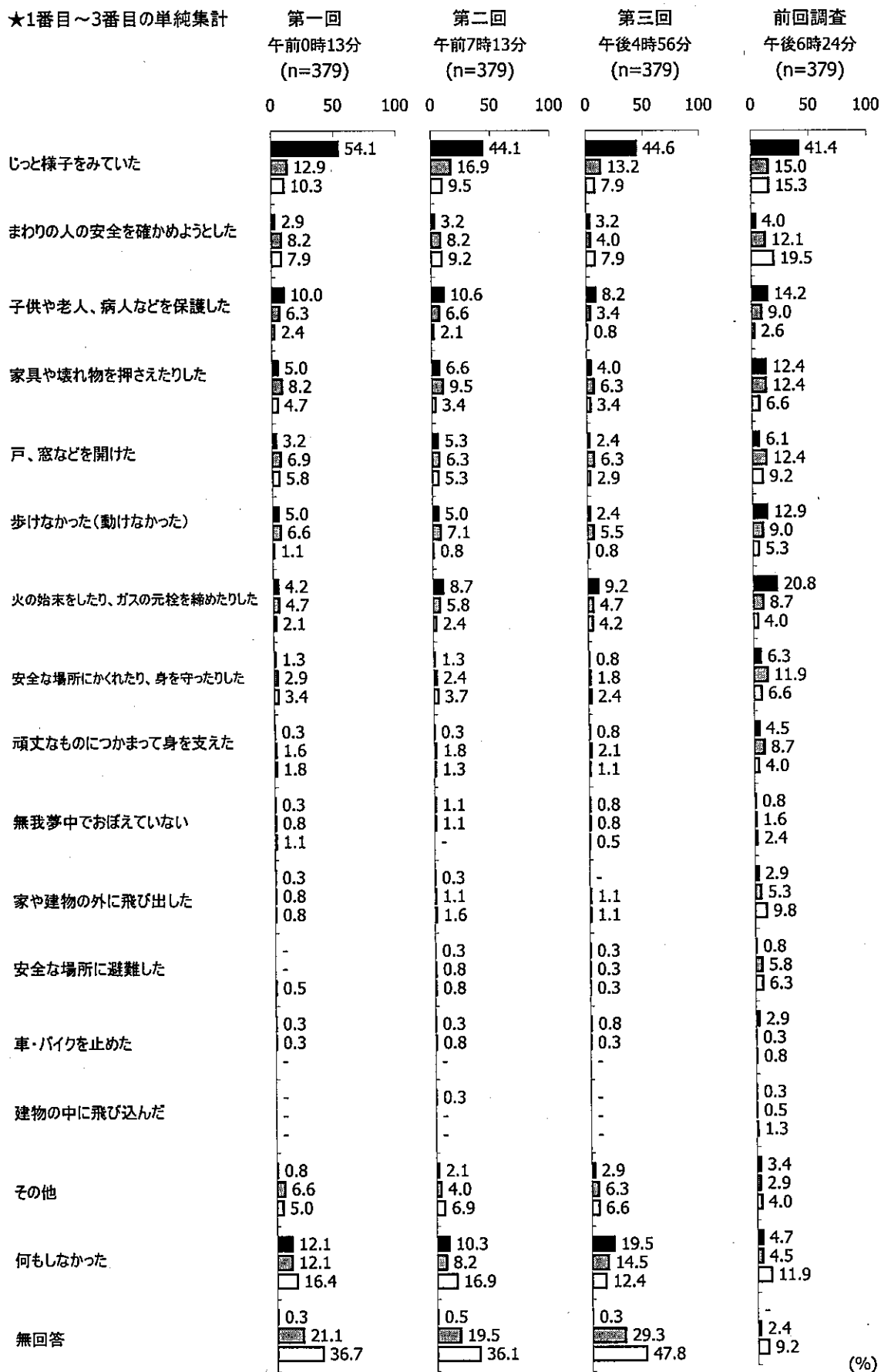


★ 回答総量(無回答除く) 241.8% 243.8% 222.6% 341.9%
 ★ 何らかの行動を起こした割合 109.1% 123.0% 99.7% 233.4%
 (「じっと様子を見ていた」「歩けなかった(動けなかった)」「無我夢中でおぼえていない」「何もしなかった」を除く)

※ この調査結果は、第一回、第二回、第三回および前回調査とも、1番目の行動から3番目の行動を統合し複数回答として集計を行っている。次頁に、「V. 調査票(単純集計結果)」P34～35の数値に基づいた、各回別の行動順位ごとの単純集計をグラフ化した。

Q3. あなたは地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、一番はじめに行なった行動から順に3つまでお選び下さい。

★1番目～3番目の単純集計



(%)

■ 1番目 ■ 2番目 □ 3番目

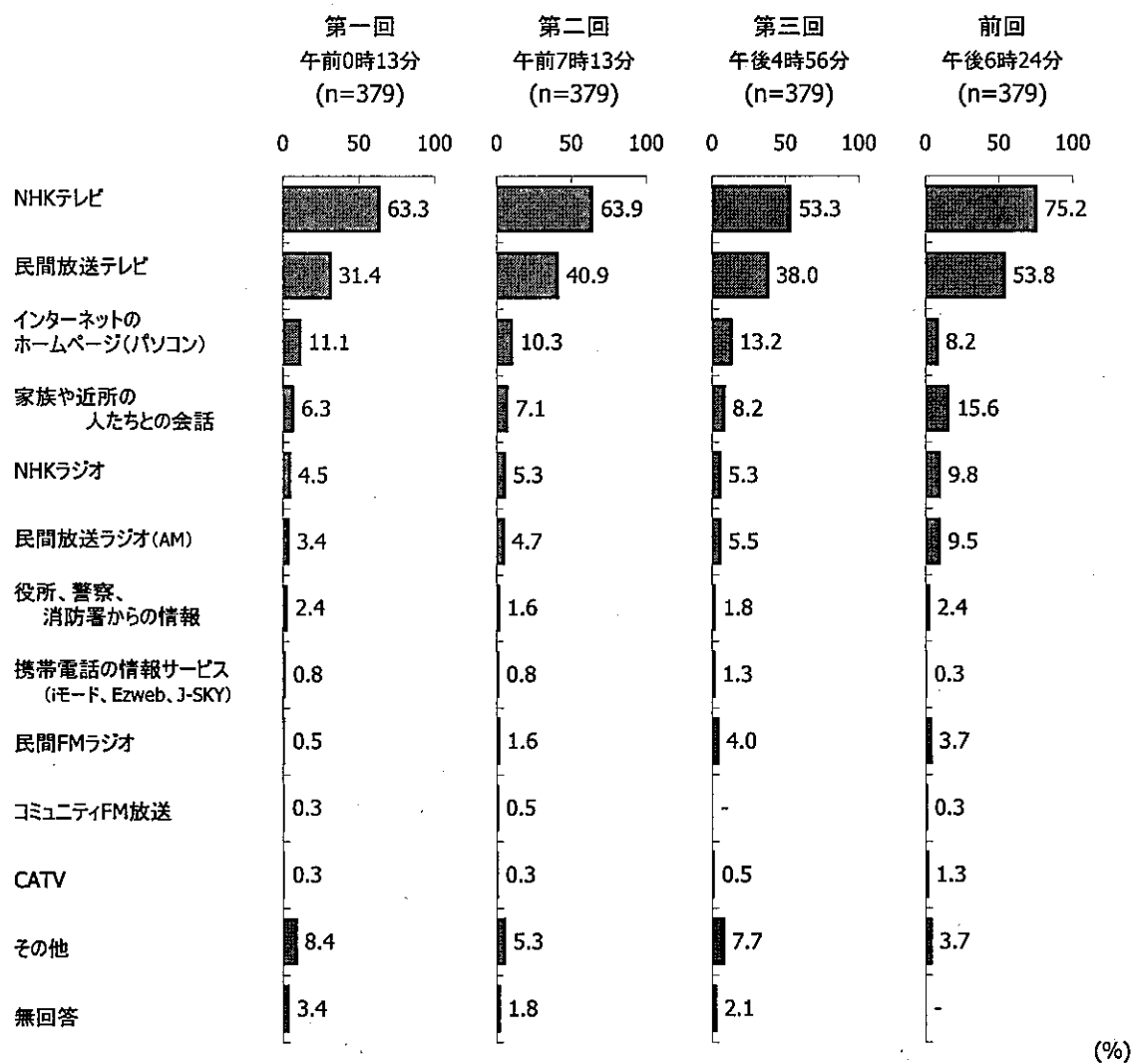
4 地震情報の入手経路

「NHKテレビ」が5割から6割強、「民間放送テレビ」は約4割

地震についての情報の入手経路は、3回の地震を通して「NHKテレビ」が最も多く、それぞれ5割から6割強を占めている（第一回63.3%、第二回63.9%、第三回53.3%）。次いで多いのは「民間放送テレビ」となっている。

前回調査と比較すると、「NHKテレビ」「民放放送テレビ」の上位は揺るがないが、「インターネットのホームページ(パソコン)」が3～5%の増加をみている。

Q4. あなたは地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、あてはまるものをいくつでもお選び下さい。（それぞれいくつでもチェック）



★ 回答総量(無回答除く) 132.7% 142.3% 138.8% 183.8%

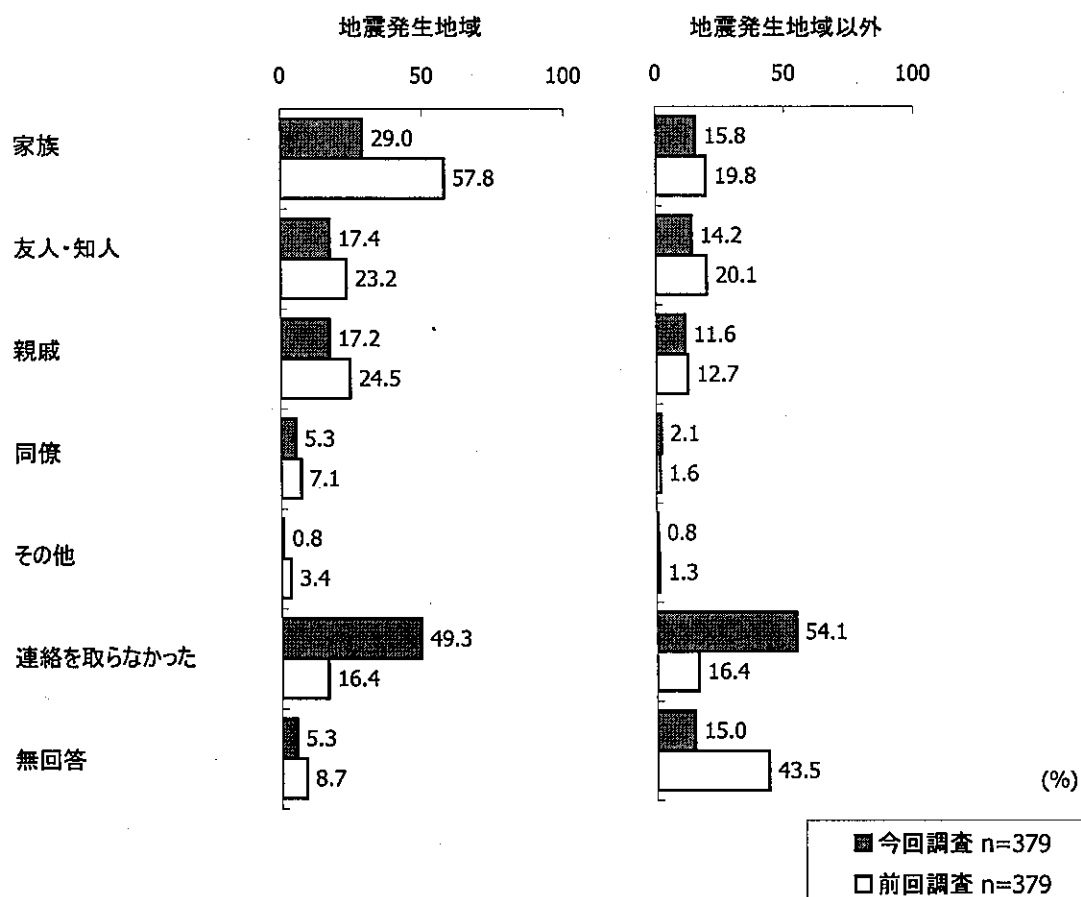
5 連絡を取った人

地震発生地域では「家族」が3割で、約半数は「連絡を取らなかった」

連絡を取った人は、地震発生地域では「家族」が29.0%と3割を占め、「友人・知人」(17.4%)と「親戚」(17.2%)が2割弱となっている。地震発生地域以外では、「家族」(15.8%)と「友人・知人」(14.2%)が1割台半ばで比較的多くなっている。

なお、地域に関係なく「連絡を取らなかった」が約5割となっており、前回調査と比べると大きく増加している。

Q5. 地震当日、あなたはどなたと連絡を取りましたか。次にあげる地域それぞれで、あてはまるものをいくつでもお選び下さい。(いくつでもチェック)



6 通信手段

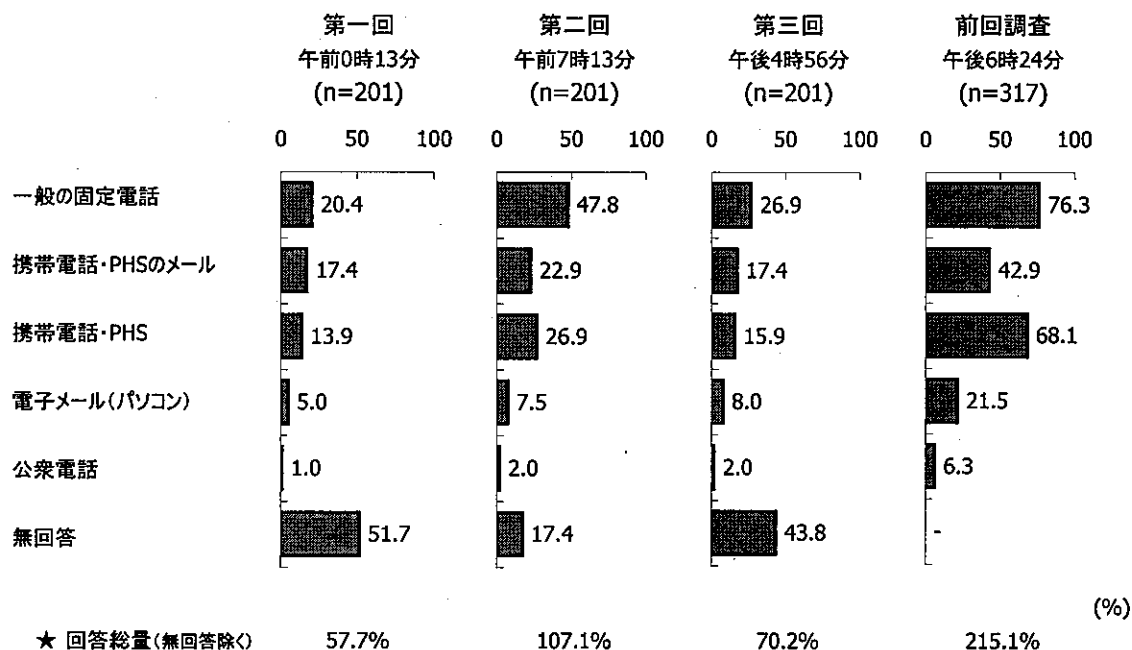
本震(第二回)では「固定電話」が約半数

第一回目の地震の後、連絡を取ろうとした通信手段は、「一般の固定電話」が20.4%と最も多い。次いで「携帯電話・PHSのメール」(17.4%)と「携帯電話・PHS」(13.9%)が1割台半ばとなっている。この傾向は第三回目の地震でも同様である。

第二回目の地震では、「一般の固定電話」が47.8%で半数近くを占め、「携帯電話・PHS」(26.9%)と「携帯電話・PHSメール」(22.9%)がほぼ4人に1人となっている。

＜Q5でどなたかと連絡をとったにお答えの方に。それ以外の方はQ9へお進み下さい＞

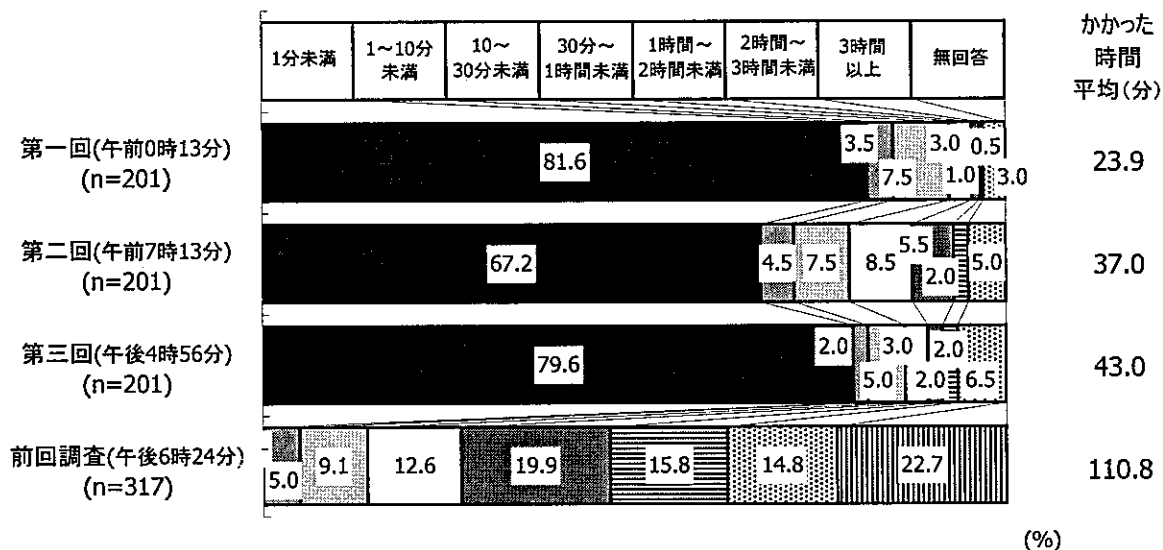
Q6. あなたは地震の後、どのような通信手段を使いましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、あてはまるものをいくつでもお選び下さい。(いくつでもチェック)



本震(第二回目)時も約7割は「1分未満」

連絡にかかった時間は、第一回目、第三回目の地震では「1分未満」が最も多く、双方共に約8割を占めている。第二回目の地震の時は「1分未満」が67.2%と7割弱であるが、前回調査時のような幅輳の影響は見られない。

Q7. あなたが連絡を取り始めた時間、および連絡がついた時間は何時頃でしたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、具体的に時間をご記入下さい。



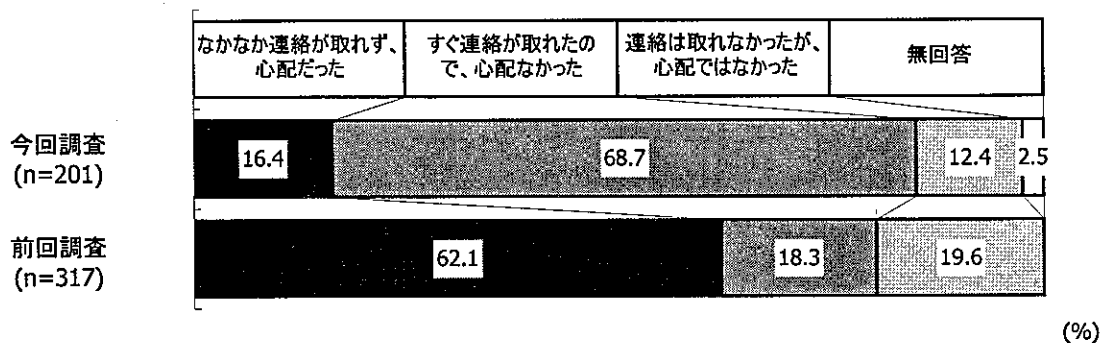
※「連絡を取り始めた時間」と「連絡がついた時間」の回答より、連絡にかかった時間を算出した。

「すぐ連絡が取れたので心配なかった」が7割

安否については、「すぐ連絡が取れたので、心配なかった」が68.7%と最も多く7割を占める。「連絡は取れなかったが、心配ではなかった」(12.4%)を合わせると、8割以上が地震当日に安否の心配はしていなかった。

一方、前回調査で最も多く6割を占めていた「なかなか連絡が取れず、心配だった」は16.4%にとどまっている。

Q8. 地震当日、あなたは家族や知人と連絡が取れず、安否が心配でしたか。



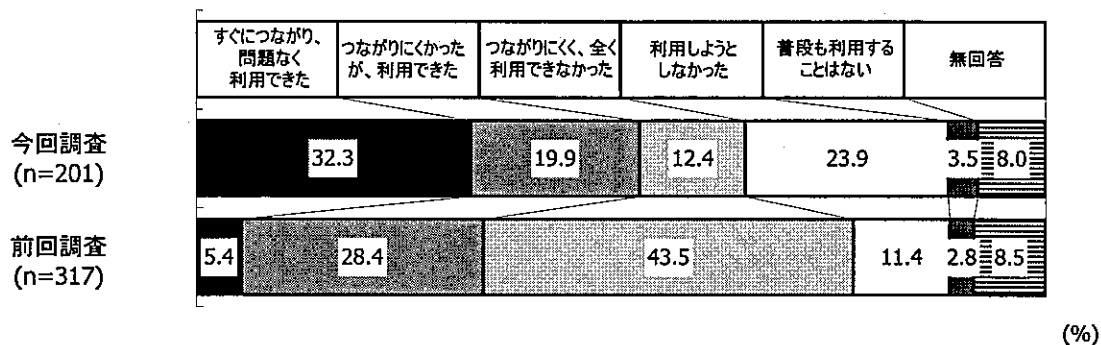
「すぐにつながり問題なく利用できた」は「固定電話」「携帯電話」共に3割

通信手段のつながり具合について、一般の固定電話では、「すぐつながり、問題なく利用できた」が32.3%と最も多く3割強を占め、「つながりにくかったが、利用できた」(19.9%)を合わせると、半数以上が利用できている。

<全員の方に>

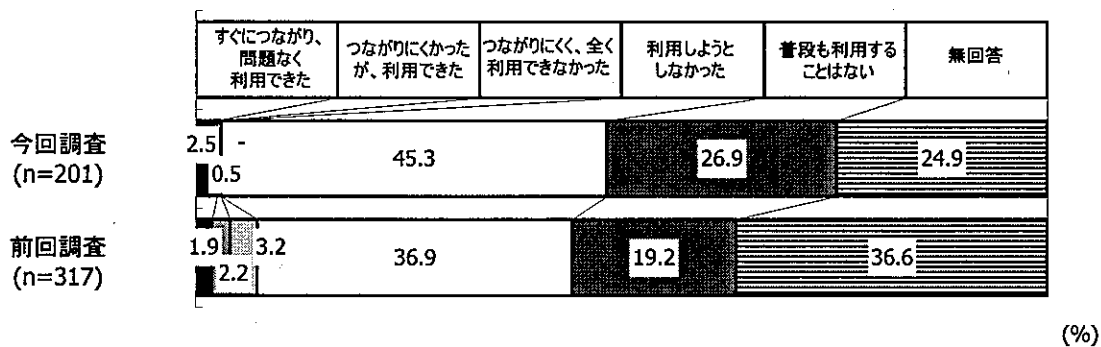
Q9. 地震当日、あなたが利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか。次の通信手段それぞれについて、あてはまるものをお選び下さい。

固定電話



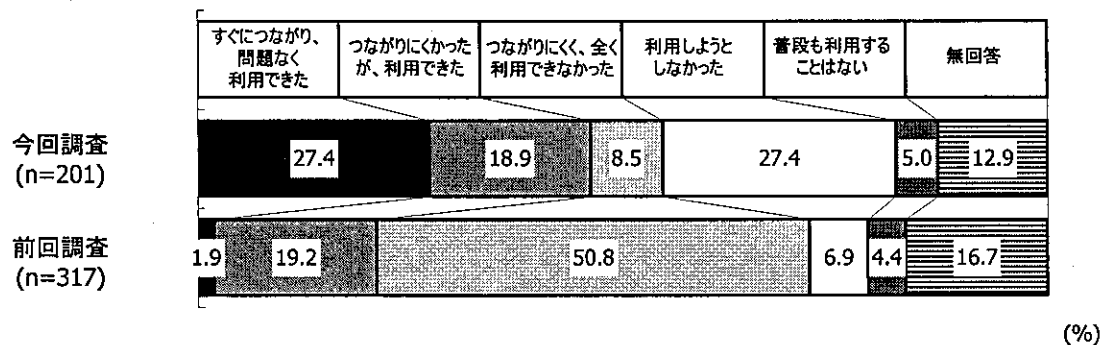
公衆電話では、「利用しようとしなかった」が45.3%と最も多く約半数を占め、次いで「普段も利用することはない」が26.9%となっている。なお、利用したのは、「すぐにつながり、問題なく利用できた」(2.5%)と「つながりにくかったが、利用できた」(0.5%)の計3.0%である。

公衆電話



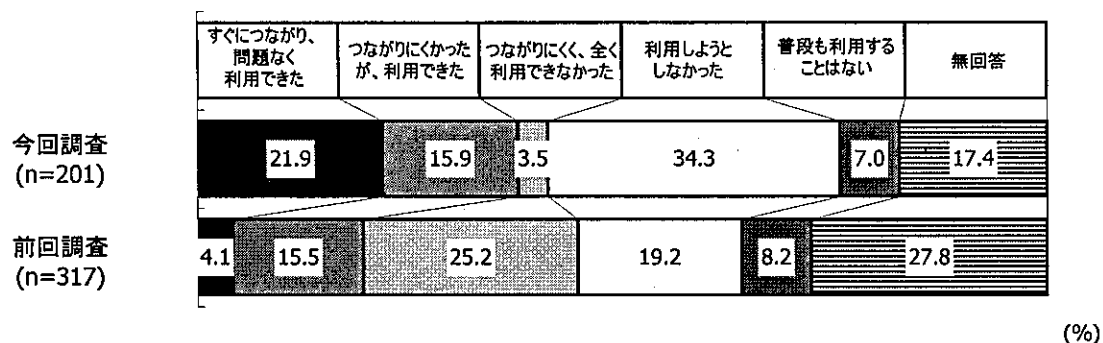
携帯電話・PHSでは、「すぐにつながり、問題なく利用できた」が27.4%で最も多くなっており、「つながりにくかったが、利用できた」(18.9%)を合わせると約半数(46.3%)が利用できている。
一方、「利用しようとしなかった」は27.4%と約3割を占めている。

携帯電話・PHS(音声)



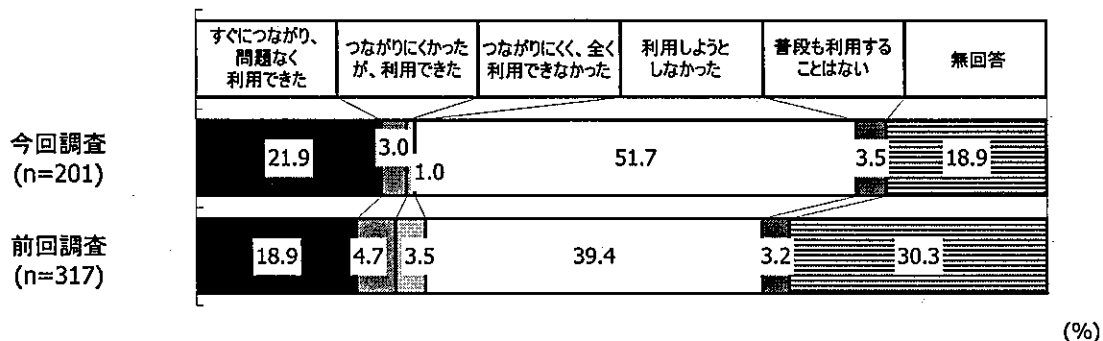
携帯電話のメールでは、利用できた(「すぐにつながり、問題なく利用できた(21.9%)」「つながりにくかったが、利用できた(15.9%)」が37.8%と4割弱を占めており、「利用しようとしなかった」は34.3%と3割強となっている。

携帯電話のメール



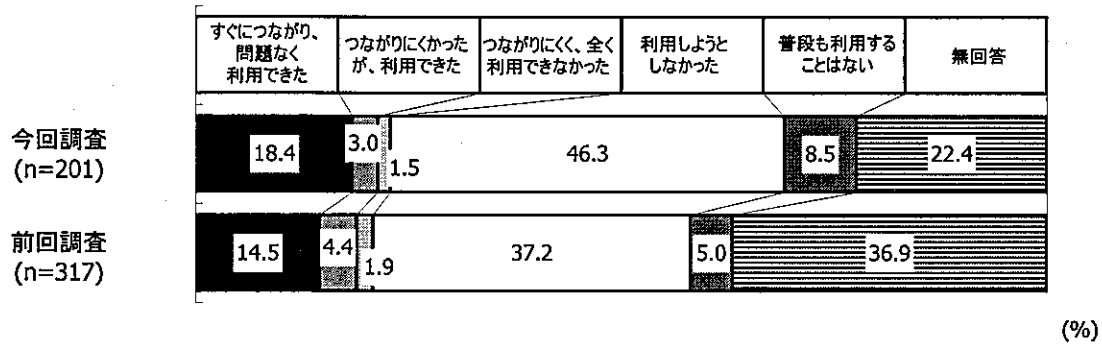
パソコンのメールでは、「利用しようとしなかった」が51.7%と最も多く過半数を占める。利用できた(「すぐにつながり、問題なく利用できた(21.9%)」「つながりにくかったが、利用できた(3.0%)」)は24.9%と4人に1人となっている。

パソコンのメール



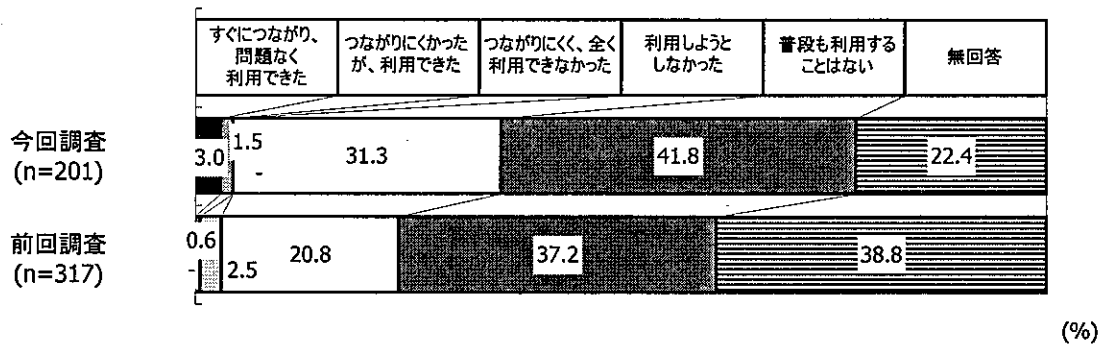
パソコンのウェブ検索では、「利用しようとしなかった」が46.3%と最も多く約半数を占める。利用できた(「すぐにつながり、問題なく利用できた(18.4%)」「つながりにくかったが、利用できた(3.0%)」は21.4%と2割強になっている。

パソコンのウェブ検索



IP電話では、「普段も利用することはない」が41.8%と最も多く、次いで「利用しようとしなかった」が31.3%となっている。

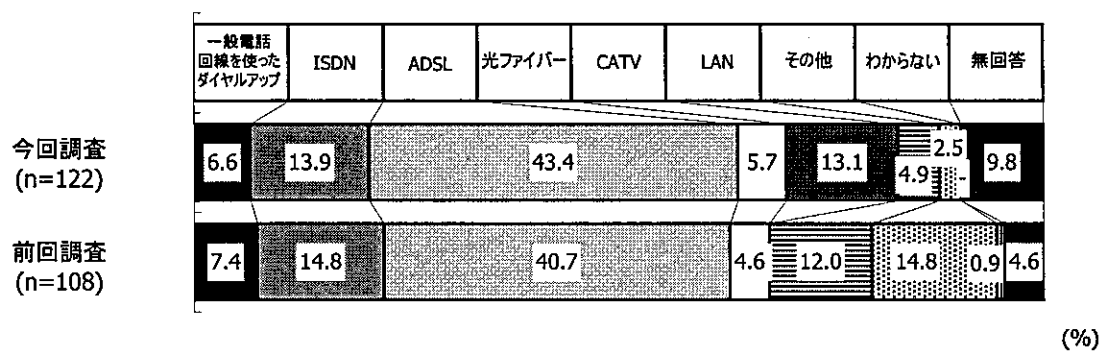
BBフォンなどのIP電話



「ADSL」が4割強、「ISDN」「CATV」が1割強

インターネットへの接続方式は、「ADSL」が43.4%と4割強を占めている。次いで「ISDN」が13.9%、「CATV」が13.1%と続いている。

<Q9でインターネット(「パソコンのメール」、「パソコンのウェブ検索」)を利用しようとした方に。それ以外の方はQ10へお進み下さい>
Q9-1 そのとき使おうとしたインターネットへの接続方式は次のうちどれですか。



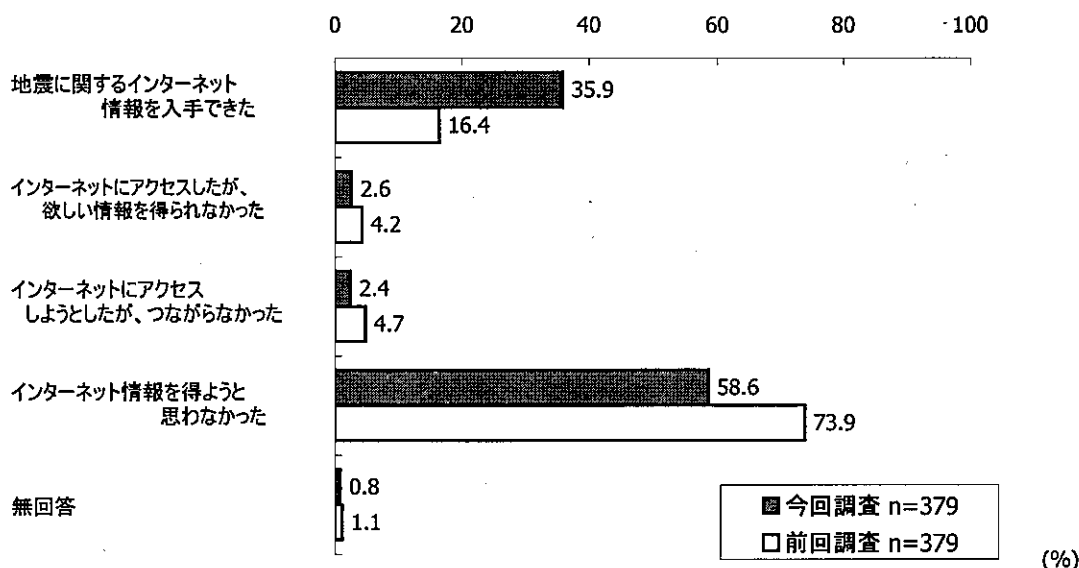
7 地震に関するインターネット情報

「インターネット情報入手できた」が4割弱

インターネットからの地震に関する情報入手については、前回調査では16.4%だった「地震に関するインターネット情報入手できた」が、今回調査では35.9%と2倍以上となっている。また、「インターネット情報を得ようと思わなかった」は58.6%と6割弱である。

＜全員の方に＞

Q10. 地震当日、あなたはインターネット(携帯電話・PHS含む)から地震に関する情報入手しましたか。
(いくつでもチェック)

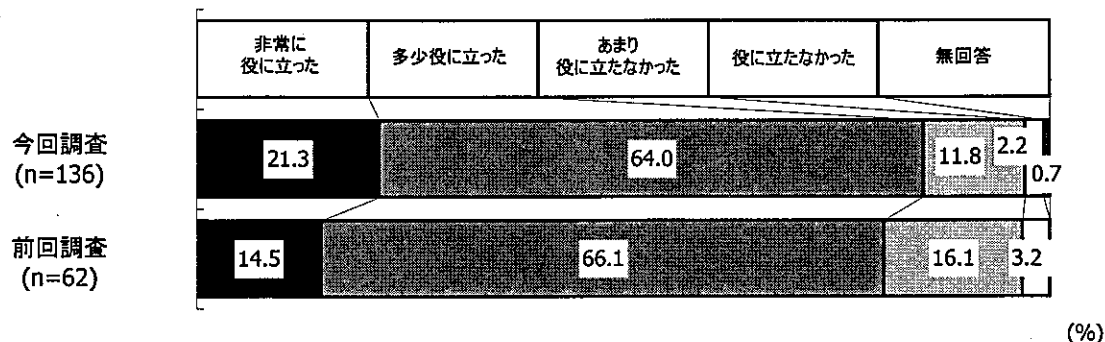


「役に立った」が8割台半ば

入手した情報については、「非常に役に立った」の21.3%と「多少役に立った」の64.0%を合わせると、85.3%が役に立ったと思っている。なお、前回調査では「非常に役に立った」は14.5%であった。

＜Q10で「地震に関するインターネット情報入手できた」とお答えの方に＞

Q10-1 その情報は役に立ちましたか。



8 地震で困ったこと

「何をしてよいのか」「どこに逃げてよいのか」「電話が使えない」などが割強で上位

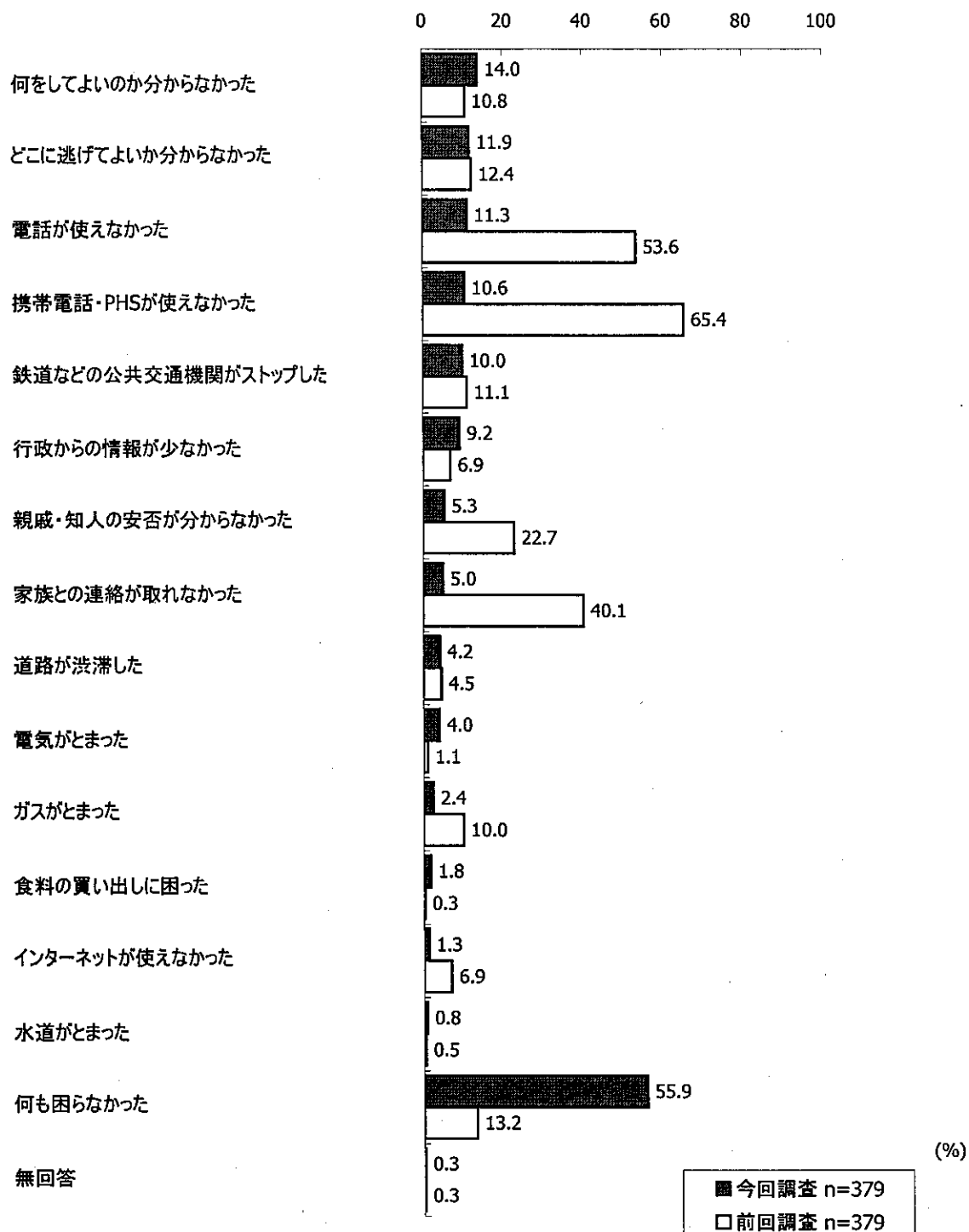
「何も困らなかった」が55.9%と半数以上を占めている。

困ったこととしては、「何をしてよいのか分からなかった」(14.0%)と「どこに逃げてよいのか分からなかった」(11.9%)と「電話が使えなかった」(11.3%)で、この3つが上位となっている。

前回調査では「携帯電話・PHS」や「電話」の通信手段の不通が上位を占めていたが、この両者が大幅に減少している。

＜全員の方に＞

Q11. 地震当日、あなたにとって困ったことは何ですか。(いくつでもチェック)

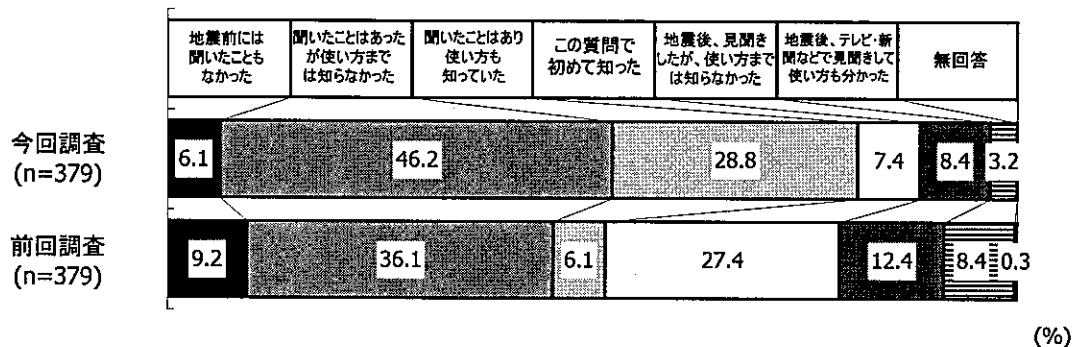


9 災害用伝言ダイヤル(171)

地震前の認知度は4人に3人

「災害用伝言ダイヤル(171)」の認知については、「(地震前に)聞いたことはあったが使い方までは知らなかった」が46.2%と最も多く、次いで「(地震前に)聞いたことはあり、使い方も知っていた」が28.8%となっている。地震前の認知度としては、上記を合わせると75.0%となり4人中3人を占めている。

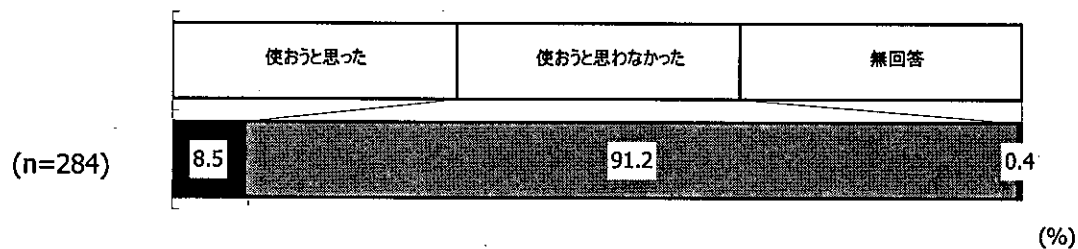
Q12. 地震当日、あなたは、災害時電話が混乱して使えない時に、安否を伝えることができる「災害用伝言ダイヤル(171)」を知っていましたか。



地震直後、「使おうと思わなかった」が9割強

今回の地震直後、「災害用伝言ダイヤル(171)」については、「使おうと思った」が8.5%と1割に満たず、「使おうと思わなかった」は91.2%となっている。

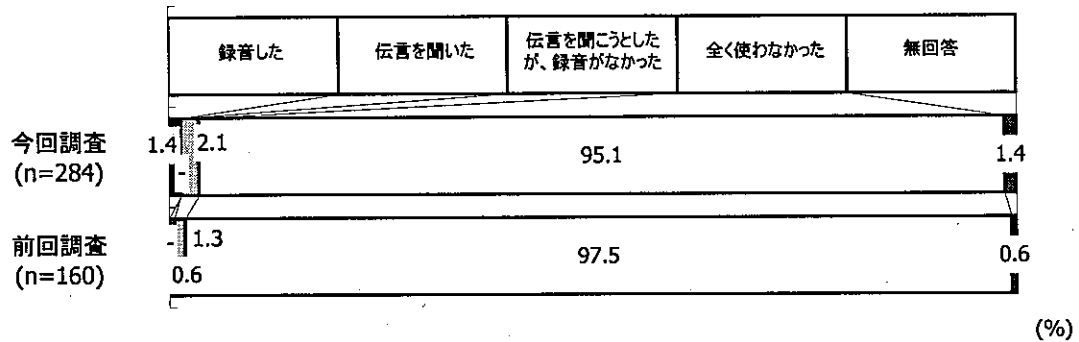
<Q12で地震前に「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」「聞いたことはあるし、使い方も知っていた」とお答えの方に>
Q12-1. あなたは、地震直後「災害用伝言ダイヤル(171)」を使おうと思いましたか。



9割以上が「使わなかった」

「災害用伝言ダイヤル(171)」を「使った」のは3.5%（「録音した」1.4%「伝言を聞こうとしたが、録音がなかった」2.1%）にとどまり、「全く使わなかった」が95.1%と大半を占める。

Q12-2 あなたは、今回「災害用伝言ダイヤル(171)」を使いましたか。



10 テレビ・ラジオの地震情報の評価

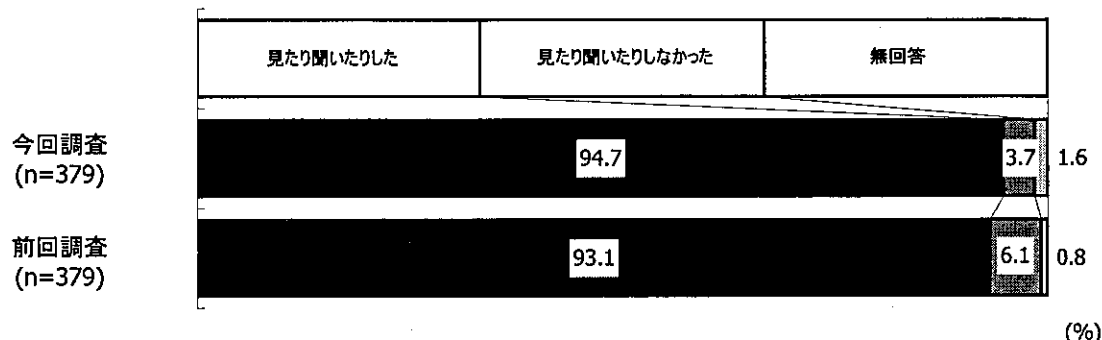
「余震の情報」と「地域の情報」への要望が約6割と高い

地震当日のテレビ・ラジオの地震情報については、「見たり聞いたりした」が9割以上を占め、「見たり聞いたりしなかった」は3.7%である。

「見たり聞いたりした」情報についての感想としては、「余震に関する情報を、もっと伝えてほしい」が62.4%と最も多く、次いで「自分の住んでいる地域の情報を、もっと多く伝えてほしい」が59.9%と続いており、ともに約6割となっている。

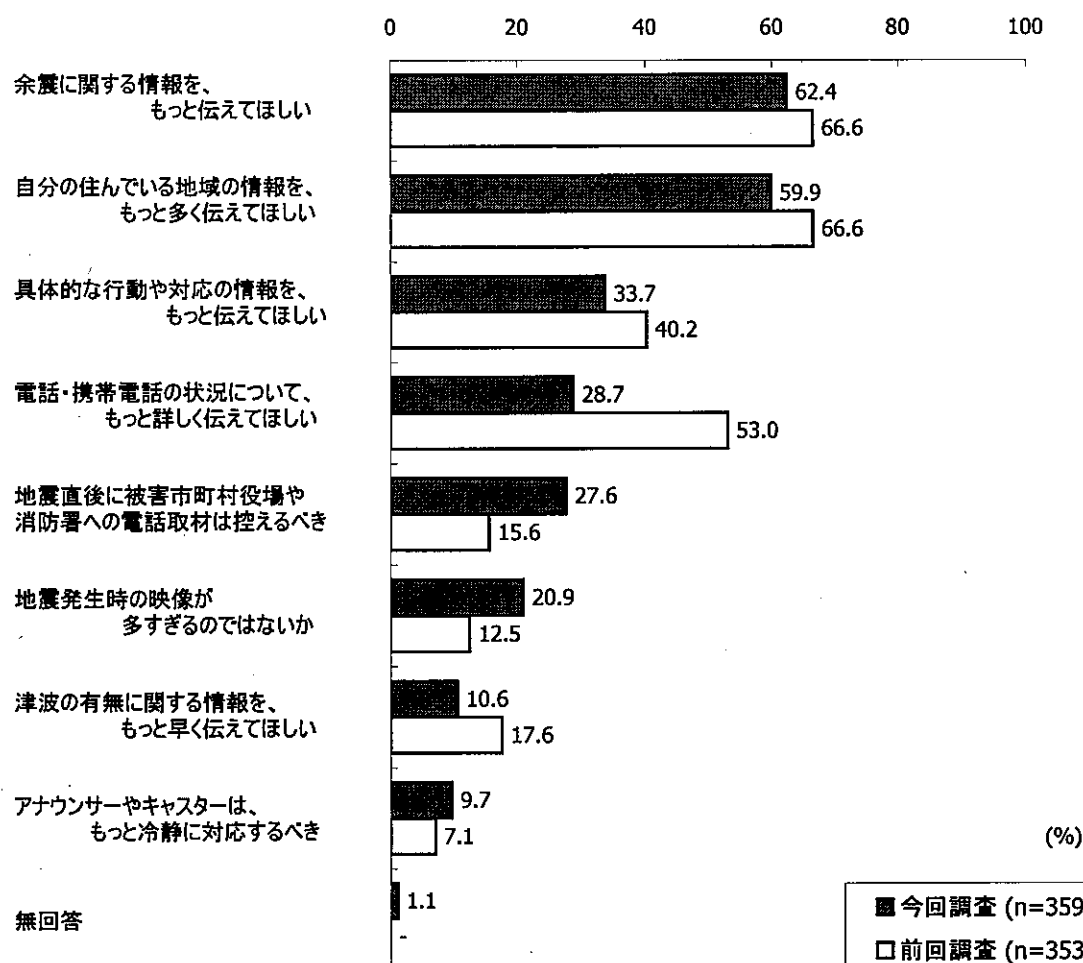
＜全員の方に＞

Q13. 地震当日、あなたはテレビ・ラジオから地震に関する情報を見たり聞いたりしましたか。



＜Q13で「見たり聞いたりした」とお答えの方に＞

Q13-1. テレビ・ラジオからの情報を、どのように感じましたか。あてはまるのものをお選び下さい。(いくつでもチェック)



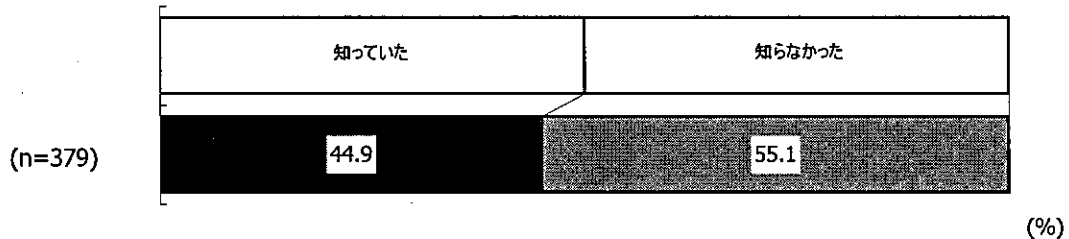
11 余震予測

余震の発生確率に対する認知度は4割台半ば

午前0時13分の第一回目の地震の後、気象庁が発表した余震発生確率について、「知っていた」が4割台半ばとなっている。

＜全員の方に＞

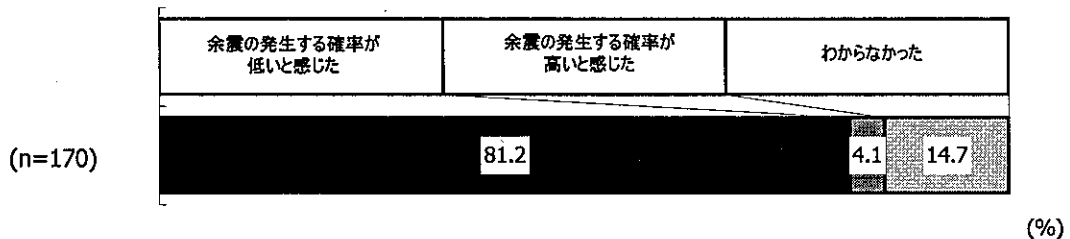
Q14. 気象庁は第一回目の午前0時13分の地震を受けて、余震の発生確率を発表しましたが、あなたはこのことを知っていましたか。



「余震の発生確率が低い」が8割強

第一回目の地震の後に発表された「マグニチュード5.0以上の余震の発生確率が10%未満」であるという確率の数値について、「低いと感じた」が81.2%を占めている。なお、「わからなかった」が14.7%となっている。

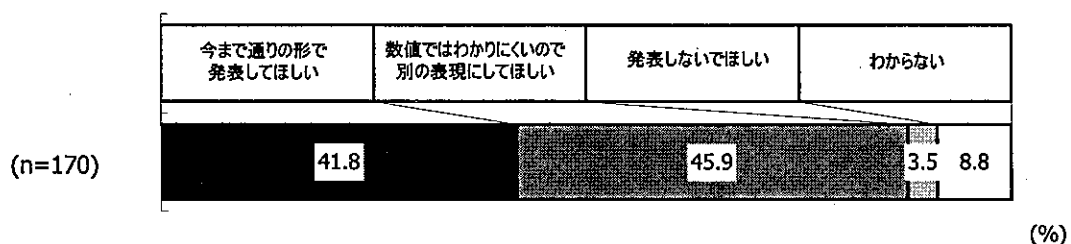
Q15. 第一回目の午前0時13分の地震の後、気象庁は「マグニチュード5.0以上の余震の発生する確率が10%未満」と発表しました。あなたはこの確率をどのように感じましたか。



「今まで通りの発表を」が4割強で、「別の表現に」が4割台半ば

これからの余震発生確率の発表については、「数値ではわかりにくいので、別の表現にしてほしい」が45.9%と最も多いものの、「今まで通りの形で発表してほしい」も41.8%と4割を超えている。

Q16. あなたはこれからも余震の発生する確率の発表を望みますか。



5月26日をきっかけに「家具や品物を固定・整理」が4人に1人

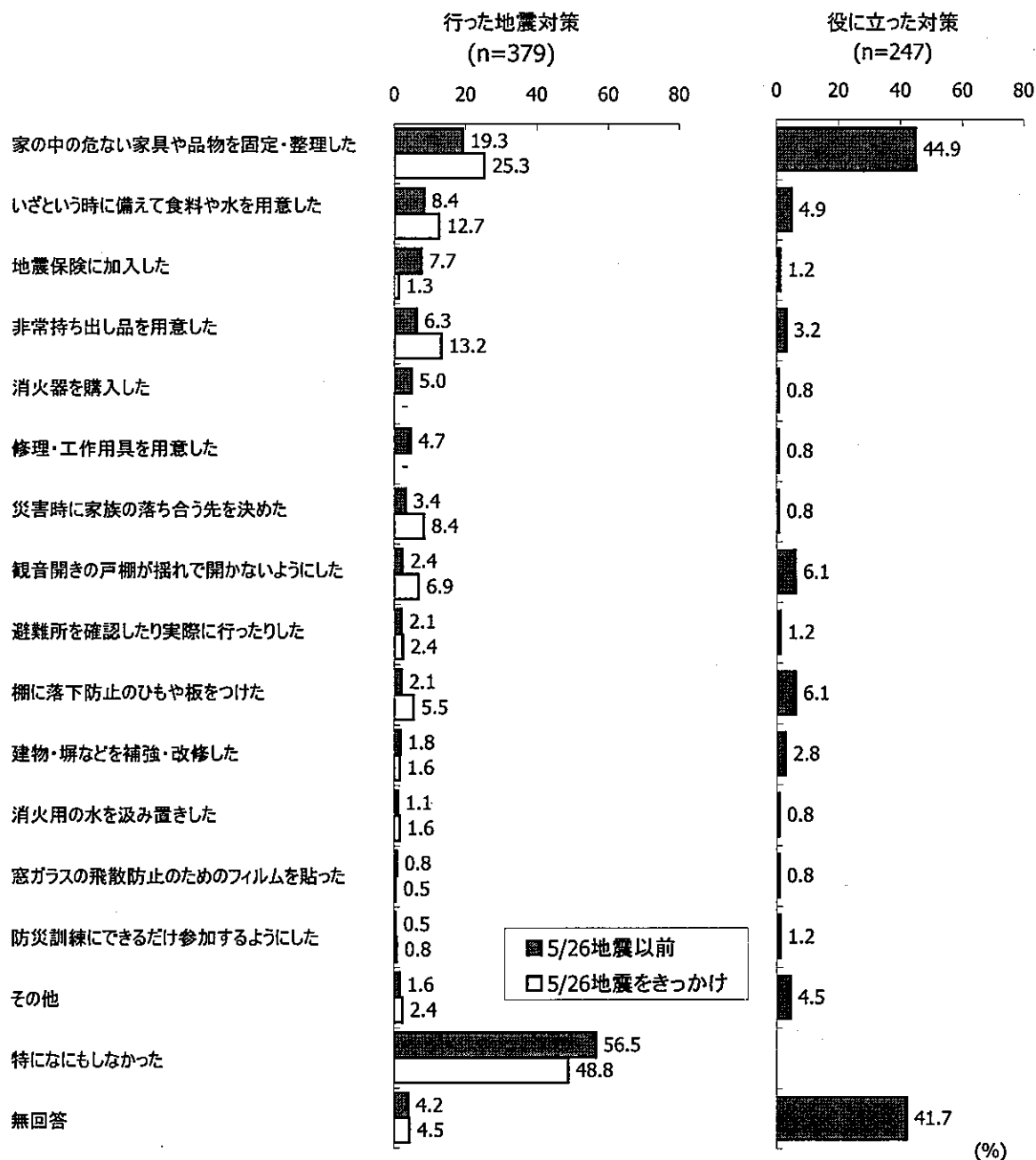
5月26日以前から行っていた地震対策としては、「家の中の危ない家具や品物を固定・整理した」が19.3%と約2割で最も多くなっている。

5月26日の地震をきっかけに行ったものとしては、「家の中の危ない家具や品物を固定・整理した」が25.3%と最も多く4人に1人で、以下、「非常持ち出し品を用意した」(13.2%)と「いざという時に備えて食料や水を用意した」(12.7%)が1割強で続いている。

なお、「特になにもしなかった」が、5月26日以前で5割台半ば(56.5%)、5月26日以降でも5割(48.8%)を占めている。

また、行った対策のうち役に立った対策については、「家の中の危ない家具や品物を固定・整理した」が44.9%と4割台半ばを占めている。

Q17. あなたのお宅では何か地震対策を行っていますか。「(A)5月26日の地震より前にすでに行っていた対策」、「(B)5月26日の地震をきっかけに行った対策」、「(C)行ったなかで役に立った対策」は何ですか。それぞれいくつでもお選び下さい。(それぞれいくつでもチェック)



★ 回答総量(無回答除く)

5/26地震以前 123.7%

5/26地震をきっかけ 131.4%

★ 何らかの対策を行った割合(「特になにもしなかった」除く)

5/26地震以前 67.2%

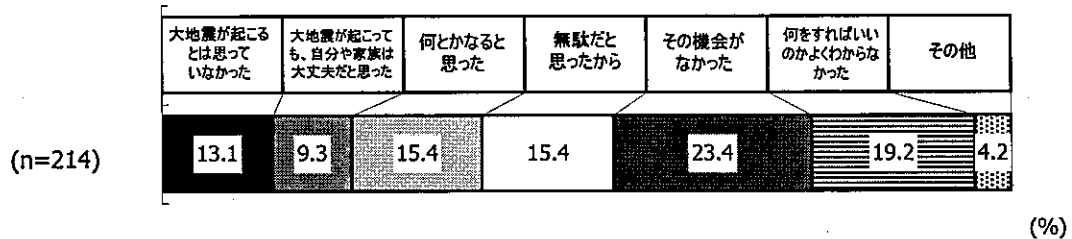
5/26地震をきっかけ 82.6%

地震対策を立てない主な理由は「機会がない」「何をすればいいかわからない」

5月26日の地震以前に地震対策を立てていなかった理由は、「その機会がなかった」が23.4%と最も多く、「何をすればいいのかわよく分からなかった」が19.2%と続いている。また、「大地震が起こるとは思っていなかった」が13.1%と1割強となっている。

＜「(A)5月26日の地震より前にすでに行っていた対策」の中で「特になにもしなかった」とお答えの方に＞

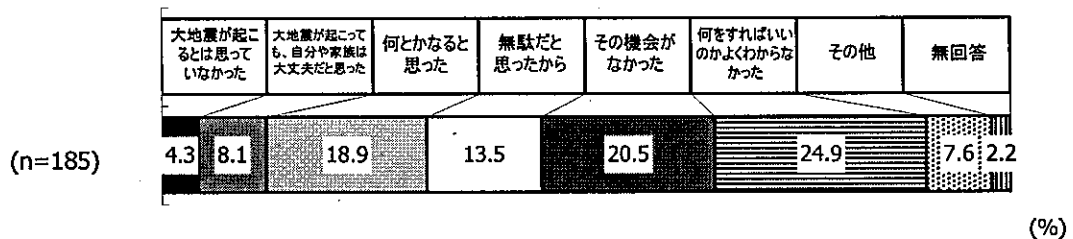
Q17-1 お宅で、対策を立てていなかったのはどうしてですか。



5月26日の地震をきっかけに対策を立てていなかった理由は、「何をすればいいのかわよく分からなかった」が24.9%と最も多く、次いで「その機会がなかった」が20.5%、「何とかなると思った」が18.9%となっている。

＜「(B)5月26日の地震をきっかけに行った対策」の中で「特になにもしなかった」とお答えの方に＞

Q17-2 お宅で、対策を立てていなかったのはどうしてですか。



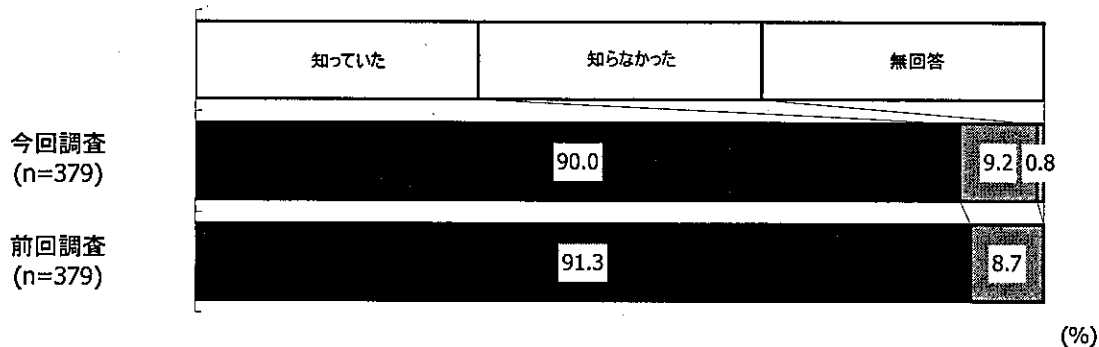
13 想定される「宮城県沖地震」について

地震前には「宮城県沖地震」を9割が認知

想定される「宮城県沖地震」を「知っていた」が9割を占める。

＜全員の方に＞

Q18. あなたは今回の地震の前に、想定されている「宮城県沖地震」をご存知でしたか。

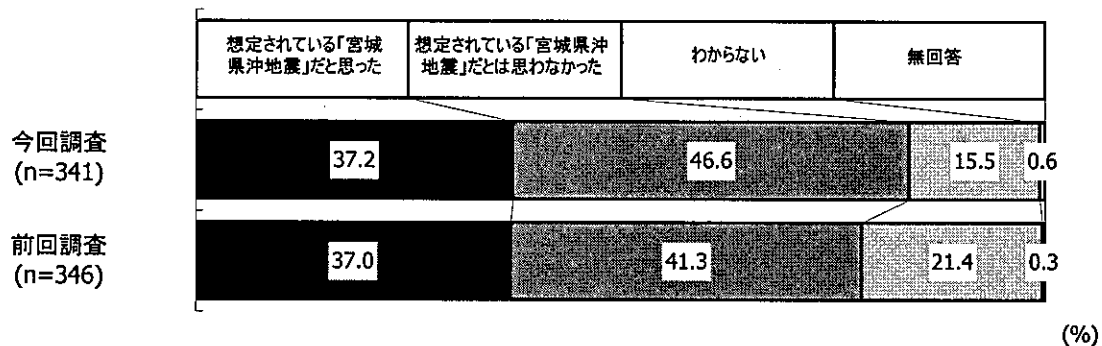


「想定される宮城県沖地震であると思った」が約4割

今回の地震について、「想定されている宮城県沖地震だと思った」が37.2%と約4割を占めている。

＜Q18で「知っていた」とお答えの方に＞

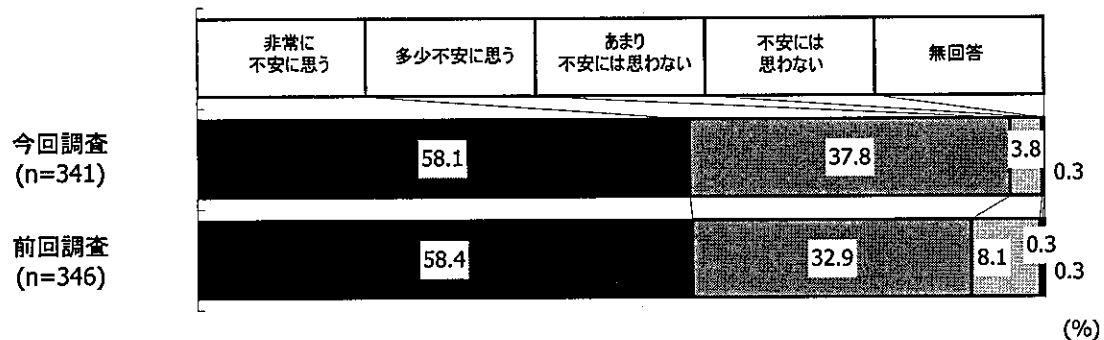
Q18-1. 今回の地震を想定されている「宮城県沖地震」と思いましたか。



「不安に思う」が9割以上

「非常に不安に思う」が58.1%と6割を占め、「多少不安に思う」(37.8%)と合わせると9割を超える。前回調査でも、「非常に不安に思う」(58.4%)と「多少不安に思う」(32.9%)を合わせ、9割を超えている。

Q18-2 今回の地震を通じて、想定されている「宮城県沖地震」への不安は高まりましたか。



14 今回の地震の被害意識

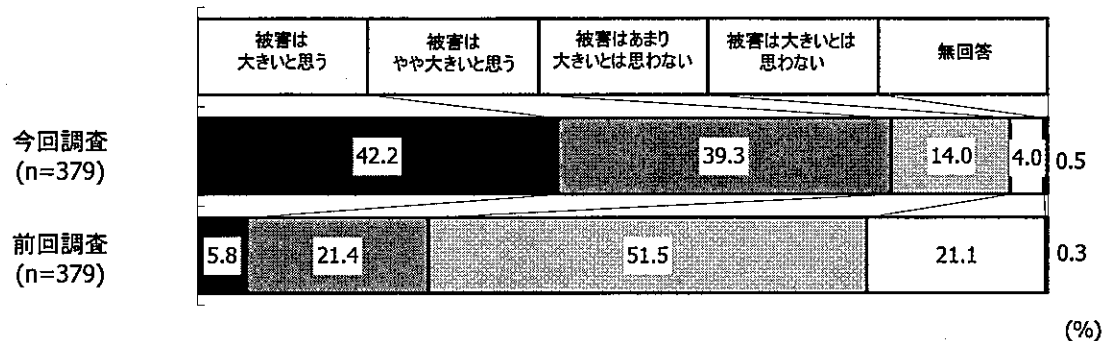
「被害が大きいと思う」が8割強

今回の地震の被害について、「被害は大きいと思う」が42.2%と4割強を占め、「被害はやや大きいと思う」(39.3%)と合わせると、8割以上が被害を大きいと受け取っている。

前回調査では、「被害はあまり大きいとは思わない」(51.5%)と「被害は大きいとは思わない」(21.1%)とを合わせ、7割が被害を大きいとは思っていない。

＜全員の方に＞

Q19. あなたは今回の地震の被害についてどう思いますか。

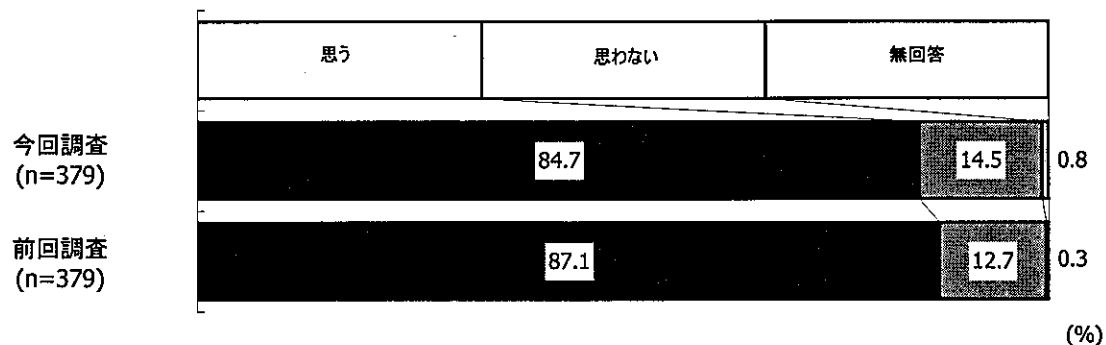


15 今後の防災意識

「防災の準備をしようと思う」が9割弱

今後、防災の準備をしようと思う人が8割台半ばとなっているが、前回調査との比較では大きな差は見られない。

Q20. あなたは今回の地震を通じて、今後、防災の準備をしようと思いますか。



V. 調査票（単純集計結果）

V. 調査票(単純集計結果)

※ 特に指定のない場合、数字は構成比(%)

KNOTs Club アンケート

7月26日 宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査

★はじめに、あなたご自身のことについて伺います★

F1.あなたの性別は。

	(n=379)
男性	40.6
女性	59.4

F2.あなたの年齢は。

	(n=379)
10代	5.0
20代	22.7
30代	39.8
40代	17.7
50代	9.0
60代以上	5.8

F3.あなたの職業は。

	(n=379)
自営業	9.8
家族従業(家事手伝い)	0.8
勤め(全日)	39.1
勤め(パートタイム)	10.6
無職の主婦	24.5
学生	9.2
無職	5.3
無回答	0.8

仕事の内容(自営業)

	(n=40)
農林水産業	-
商工・サービス	30.0
自由業	40.0
無回答	30.0

仕事の内容(勤め・全日)

	(n=188)
経営・管理職	6.4
専門・技術職	28.7
事務職	27.7
労務・技能職	6.9
販売・サービス業	18.6
無回答	11.7

F4.あなたの家族形態は

	(n=379)
単身	9.5
それ以外	90.2
無回答	0.3

F5.あなたの居住地は(市町村まで)

	(n=379)
岩手県	25.6
宮城県	74.4

★★ここからがアンケートです★★

去る7月26日、1日に3回の大きな地震が発生しました。第一回目は午前0時13分(最大震度6弱)、第二回目は午前7時13分(最大震度6強)、そして第三回目は午後4時56分(最大震度6弱)と、1日に3回も大きな地震が発生しました。

Q1.あなたは地震発生時、どこにいましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、ひとつずつお選び下さい。

(n=379)

	第一回目 午前0時13分 の地震の時	第二回目 午前7時13分 の地震の時	第三回目 午後4時56分 の地震の時
自宅にいた	92.3	91.0	61.2
会社・学校にいた	2.1	2.9	15.3
上記(自宅・会社・学校)以外の建物の中にいた	3.2	1.3	8.7
建物の外にいた	-	0.8	3.7
車・バイクで走っていた	1.1	1.6	8.4
電車やバスなどに乗っていた	-	1.1	0.8
その他	1.1	1.1	1.3
無回答	0.3	0.3	0.5

Q2.あなたはこの地震が起きたとき、何をしていましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、ひとつずつお選び下さい。

(n=379)

	第一回目 午前0時13分 の地震の時	第二回目 午前7時13分 の地震の時	第三回目 午後4時56分 の地震の時
眠っていた	47.8	37.5	2.6
床に就いてはいたが眠ってはいなかった	10.6	17.4	2.4
本を読んだり音楽を聞いたりしていた	17.2	1.6	8.4
風呂に入っていた	2.6	0.5	1.6
仕事をしていた	3.7	5.8	22.2
飲食していた	1.1	10.3	1.3
家族と団らんしていた	7.1	6.3	24.3
その他	9.8	20.3	36.9
無回答	0.3	0.3	0.3

Q3.あなたは地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、一番はじめに行なった行動から順に3つまでお選び下さい。

(n=379)

	第一回目		
	午前0時13分の地震の時		
	1番目	2番目	3番目
じっと様子をみていた	54.1	12.9	10.3
歩けなかった(動けなかった)	5.0	6.6	1.1
火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	4.2	4.7	2.1
家具や壊れ物を押さえたりした	5.0	8.2	4.7
安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	1.3	2.9	3.4
頑丈なものにつかまって身を支えた	0.3	1.6	1.8
子供や老人、病人などを保護した	10.0	6.3	2.4
戸、窓などを開けた	3.2	6.9	5.8
家や建物の外に飛び出した	0.3	0.8	0.8
建物の中に飛び込んだ	-	-	-
安全な場所に避難した	-	-	0.5
車・バイクを止めた	0.3	0.3	-
まわりの人の安全を確かめようとした	2.9	8.2	7.9
無我夢中でおぼえていない	0.3	0.8	1.1
その他	0.8	6.6	5.0
何もしなかった	12.1	12.1	16.4
無回答	0.3	21.1	36.7

(n=379)

	第二回目		
	午前7時13分の地震の時		
	1番目	2番目	3番目
じっと様子をみていた	44.1	16.9	9.5
歩けなかった(動けなかった)	5.0	7.1	0.8
火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	8.7	5.8	2.4
家具や壊れ物を押さえたりした	6.6	9.5	3.4
安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	1.3	2.4	3.7
頑丈なものにつかまって身を支えた	0.3	1.8	1.3
子供や老人、病人などを保護した	10.6	6.6	2.1
戸、窓などを開けた	5.3	6.3	5.3
家や建物の外に飛び出した	0.3	1.1	1.6
建物の中に飛び込んだ	0.3	-	-
安全な場所に避難した	0.3	0.8	0.8
車・バイクを止めた	0.3	0.8	-
まわりの人の安全を確かめようとした	3.2	8.2	9.2
無我夢中でおぼえていない	1.1	1.1	-
その他	2.1	4.0	6.9
何もしなかった	10.3	8.2	16.9
無回答	0.5	19.5	36.1

Q3.あなたは地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、一番はじめに行なった行動から順に3つまでお選び下さい。

(n=379)

	第三回目 午後4時56分の地震の時		
	1番目	2番目	3番目
じっと様子をみていた	44.6	13.2	7.9
歩けなかった(動けなかった)	2.4	5.5	0.8
火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	9.2	4.7	4.2
家具や壊れ物を押さえたりした	4.0	6.3	3.4
安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	0.8	1.8	2.4
頑丈なものにつかまって身を支えた	0.8	2.1	1.1
子供や老人、病人などを保護した	8.2	3.4	0.8
戸、窓などを開けた	2.4	6.3	2.9
家や建物の外に飛び出した	-	1.1	1.1
建物の中に飛び込んだ	-	-	-
安全な場所に避難した	0.3	0.3	0.3
車・バイクを止めた	0.8	0.3	-
まわりの人の安全を確かめようとした	3.2	4.0	7.9
無我夢中でおぼえていない	0.8	0.8	0.5
その他	2.9	6.3	6.6
何もしなかった	19.5	14.5	12.4
無回答	0.3	29.3	47.8

Q4.あなたは地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、あてはまるものをいくつでもお選び下さい。(それぞれいくつでもチェック)

(n=379)

	第一回目 午前0時13分 の地震の時	第二回目 午前7時13分 の地震の時	第三回目 午後4時56分 の地震の時
NHKテレビ	63.3	63.9	53.3
NHKラジオ	4.5	5.3	5.3
民間放送テレビ	31.4	40.9	38.0
民間放送ラジオ(AM)	3.4	4.7	5.5
民間FMラジオ	0.5	1.6	4.0
コミュニティFM放送	0.3	0.5	-
CATV	0.3	0.3	0.5
インターネットのホームページ(パソコン)	11.1	10.3	13.2
携帯電話の情報サービス(iモード、Ezweb、J-SKY)	0.8	0.8	1.3
家族や近所の人たちとの会話	6.3	7.1	8.2
役所、警察、消防署からの情報	2.4	1.6	1.8
その他	8.4	5.3	7.7
無回答	3.4	1.8	2.1

Q5.地震当日、あなたはどなたと連絡を取りましたか。次にあげる地域それぞれで、あてはまるものをいくつでもお選び下さい。(いくつでもチェック)

(n=379)

	家族	親戚	友人・知人	同僚	その他	連絡をとらなかった	無回答
地震が起きた地域の人	29.0	17.2	17.4	5.3	0.8	49.3	5.3
それ以外の地域の人	15.8	11.6	14.2	2.1	0.8	54.1	15.0

<Q5でどなたかと連絡をとったにお答えの方に。それ以外の方はQ9へお進み下さい>

Q6.あなたは地震の後、どのような通信手段を使いましたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、あてはまるものをいくつかもお選び下さい。(いくつかチェック)

(n=201)

	第一回目 午前0時13分 の地震の時	第二回目 午前7時13分 の地震の時	第三回目 午後4時56分 の地震の時
一般の固定電話からかけた	20.4	47.8	26.9
公衆電話からかけた	1.0	2.0	2.0
携帯電話・PHSからかけた	13.9	26.9	15.9
携帯電話・PHSのメールで連絡しようとした	17.4	22.9	17.4
電子メール(パソコン)で連絡しようとした	5.0	7.5	8.0
無回答	51.7	17.4	43.8

Q7.あなたが連絡を取り始めた時間、および連絡がついた時間は何時頃でしたか。次にあげる地震発生時それぞれについて、具体的に時間をご記入下さい。

(n=201)

連絡がとれるまでの時間	第一回目 午前0時13分 の地震の時	第二回目 午前7時13分 の地震の時	第三回目 午後4時56分 の地震の時
1分未満	81.6	67.2	79.6
1～10分未満	3.5	4.5	2.0
10～30分未満	7.5	7.5	5.0
30～1時間未満	3.0	8.5	3.0
1時間～2時間未満	1.0	5.5	2.0
2時間～3時間未満	0.5	2.0	2.0
3時間以上	3.0	5.0	6.5

Q8.地震当日、あなたは家族や知人と連絡が取れず、安否が心配でしたか。

(n=201)

なかなか連絡が取れず、心配だった	16.4
すぐ連絡が取れたので、心配なかった	68.7
連絡は取れなかったが、心配ではなかった	12.4
無回答	2.5

<全員の方に>

Q9.地震当日、あなたが利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか。次の通信手段それぞれについて、あてはまるものをお選び下さい。

(n=201)

通信手段	すぐにつながり、 問題なく利用 できた	つながりにく かったが、利用 できた	つながりにくく、 全く利用でき なかった	利用しよ うとしな かった	普段も 利用する ことはな い	無回答
固定電話	32.3	19.9	12.4	23.9	3.5	8.0
公衆電話	2.5	0.5	-	45.3	26.9	24.9
携帯電話・PHS(音声)	27.4	18.9	8.5	27.4	5.0	12.9
携帯電話のメール	21.9	15.9	3.5	34.3	7.0	17.4
パソコンのメール	21.9	3.0	1.0	51.7	3.5	18.9
パソコンのウェブ検索	18.4	3.0	1.5	46.3	8.5	22.4
BBフォンなどのIP電話	3.0	1.5	-	31.3	41.8	22.4

<Q9でインターネット(「パソコンのメール」、「パソコンのウェブ検索」)を利用しようとした方に。
それ以外の方はQ10へお進み下さい>

Q9-1.そのとき使おうとしたインターネットへの接続方式は次のうちどれですか。

	(n=122)
一般電話回線を使ったダイヤルアップ接続	6.6
ISDNを使った接続	13.9
ADSLを使った接続	43.4
光ファイバーを使った接続	5.7
CATVを使った接続	13.1
会社などで、LANを使った接続	4.9
その他(具体的に)	2.5
わからない	-
無回答	9.8

<全員の方に>

Q10.地震当日、あなたはインターネット(携帯電話・PHS含む)から地震に関する情報を入手しましたか。(いくつでもチェック)

	(n=379)
地震に関するインターネット情報を入手できた →(Q10-1へ)	35.9
インターネットにアクセスしたが、欲しい情報を得られなかった →(Q11へ)	2.6
インターネットにアクセスしようとしたが、つながらなかった →(Q11へ)	2.4
インターネット情報を得ようと思わなかった →(Q11へ)	58.6
無回答	0.8

<Q10で「地震に関するインターネット情報を入手できた」とお答えの方に>

Q10-1.その情報は役に立ちましたか。

	(n=136)
非常に役に立った	21.3
多少役に立った	64.0
あまり役に立たなかった	11.8
役に立たなかった	2.2
無回答	0.7

<全員の方に>

Q11.地震当日、あなたにとって困ったことは何ですか。(いくつでもチェック)

	(n=379)
どこに逃げてよいか分からなかった	11.9
行政からの情報が少なかった	9.2
鉄道などの公共交通機関がストップした	10.0
道路が渋滞した	4.2
電気がとまった	4.0
ガスがとまった	2.4
水道がとまった	0.8
電話が使えなかった	11.3
携帯電話・PHSが使えなかった	10.6
インターネットが使えなかった	1.3
食料の買い出しに困った	1.8
何をしようかのわからなかった	14.0
家族との連絡が取れなかった	5.0
親戚・知人の安否がわからなかった	5.3
何も困らなかった	55.9
無回答	0.3

Q12.地震当日、あなたは、災害時電話が混乱して使えない時に、安否を伝えることができる「災害用伝言ダイヤル(171)」を知っていましたか。

	(n=379)
今回の地震の前には、聞いたこともなかった →(Q13へ)	6.1
今回の地震の前に、聞いたことはあったが使い方までは知らなかった →(Q12-1へ)	46.2
今回の地震の前に、聞いたことはあったし、使い方も知っていた →(Q12-1へ)	28.8
今現在、この質問で初めて知った →(Q13へ)	7.4
今回の地震の後、テレビ・新聞などで見聞きしたが、使い方までは知らなかった →(Q13へ)	8.4
今回の地震の後、テレビ・新聞などで見聞きして、使い方も分かった →(Q13へ)	3.2

<Q12で地震前に「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」「聞いたことはあるし、使い方も知っていた」とお答えの方に>

Q12-1.あなたは、地震直後「災害用伝言ダイヤル(171)」を使おうと思いましたか。

	(n=284)
使おうと思った	8.5
使おうと思わなかった	91.2
無回答	0.4

Q12-2.あなたは、今回「災害用伝言ダイヤル(171)」を使いましたか。

	(n=284)
録音した →(Q12-3へ)	1.4
伝言を聞いた →(Q12-3へ)	-
伝言を聞こうとしたが、録音がなかった →(Q13へ)	2.1
全く使わなかった →(Q13へ)	95.1
無回答	1.4

<Q12-2で「録音した」「伝言を聞いた」とお答えの方に>

Q12-3.「災害用伝言ダイヤル(171)」は役に立ちましたか。

	(n=4)
非常に役に立った	-
多少役に立った	75.0
あまり役に立たなかった	-
役に立たなかった	25.0

<全員の方に>

Q13.地震当日、あなたはテレビ・ラジオから地震に関する情報を見たり聞いたりしましたか。

	(n=379)
見たり聞いたりした →(Q13-1へ)	94.7
見たり聞いたりしなかった →(Q14へ)	3.7
無回答	1.6

<Q13で「見たり聞いたりした」とお答えの方に>

Q13-1.テレビ・ラジオからの情報を、どのように感じましたか。あてはまるのものをお選び下さい。(いくつでもチェック)

	(n=359)
津波の有無に関する情報を、もっと早く伝えてほしい	10.6
具体的にどのような行動や対応をとればよいかという情報を、もっと伝えてほしい	33.7
情報を伝えるアナウンサーやキャスターは、もっと冷静に対応するべきである	9.7
自分の住んでいる地域の情報を、もっと多く伝えてほしい	59.9
電話・携帯電話の状況について、もっと詳しく伝えてほしい	28.7
放送局が、地震直後に被害のあった市町村役場や消防署などに電話取材をするのは、控えるべきである	27.6
地震発生時の映像が多すぎるのではないか	20.9
余震に関する情報を、もっと伝えてほしい	62.4
無回答	1.1

<全員の方に>

Q14.気象庁は第一回目の午前0時13分の地震を受けて、余震の発生確率を発表しましたが、あなたはこれを知っていましたか。

(n=379)

知っていた	44.9
知らなかった	55.1

Q15.第一回目の午前0時13分の地震の後、気象庁は「マグニチュード5.0以上の余震の発生する確率を10%未満」と発表しました。あなたはこの確率をどのように感じましたか。

(n=170)

「10%未満」という数値は、余震の発生する確率が低いと感じた	81.2
「10%未満」という数値は、余震の発生する確率が高いと感じた	4.1
わからなかった	14.7

Q16.あなたはこれからも余震の発生する確率の発表を望みますか。

(n=170)

今まで通りの形で発表してほしい	41.8
数値での発表はわかりにくいので別の表現にしてほしい	45.9
発表しないでほしい	3.5
わからない	8.8

Q17.あなたのお宅では何か地震対策を行っていますか。「(A)5月26日の地震より前にすでに行っていた対策」、「(B)5月26日の地震をきっかけに行なった対策」、「(C)行なったなかで役に立った対策」は何ですか。それぞれいくつでもお選び下さい。(それぞれいくつでもチェック)

※今回(7月26日に発生した宮城県北部を震源とする地震)ではなく、前回(5月26日に発生した宮城県沖を震源とする地震)の前後での対策についてです。ご注意ください。

対 策	(n=379)	(n=379)	(n=247)
	(A) 5月26 日以前 に行なっ ていた対 策	(B) 5月26 日をきっ かけに行 なった 対策	(C) 役に立っ た対策
家の中の危ない家具や品物を固定・整理した	19.3	25.3	44.9
建物・塀などを補強・改修した	1.8	1.6	2.8
消火用の水を汲み置きした	1.1	1.6	0.8
消火器を購入した	5.0	-	0.8
スコップ・ノコギリ・かなづちなどの修理・工作用具を用意した	4.7	-	0.8
非常持ち出し品を用意した	6.3	13.2	3.2
いざという時に備えて食料や水を用意した	8.4	12.7	4.9
災害時に家族の落ち合う先を決めた	3.4	8.4	0.8
防災訓練にできるだけ参加するようにした	0.5	0.8	1.2
地震保険に加入した	7.7	1.3	1.2
避難所を確認したり実際に行ったりした	2.1	2.4	1.2
窓ガラスの飛散防止のためのフィルムを貼った	0.8	0.5	0.8
棚の中のもの落下しないように棚に落下防止のひもや板をつけた	2.1	5.5	6.1
観音開きの戸棚が揺れて開かないようにした	2.4	6.9	6.1
その他	1.6	2.4	4.5
特になにもしなかった	56.5	48.8	
無回答	4.2	4.5	41.7

<「(A)5月26日の地震より前にすでに行っていた対策」の中で「特になにもしなかった」とお答えの方に>

Q17-1.お宅で、対策を立てていなかったのはどうしてですか。

(n=214)

大地震が起こるとは思っていなかったから	13.1
大地震が起こっても、自分や家族は大丈夫だと思ったから	9.3
対策を立てていなくとも、そのときには何とかなると思ったから	15.4
大地震が起これば対策を立てても無駄だと思ったから	15.4
対策を立てようと思っはいたが、その機会がなかったから	23.4
対策を立てようと思っていたが、何をすればいいのかよくわからなかったから	19.2
その他(具体的に)	4.2

<「(B)5月26日の地震をきっかけに行った対策」の中で「特になにもしなかった」とお答えの方に>

Q17-2.お宅で、対策を立てていなかったのはどうしてですか。

(n=185)

大地震が起こるとは思っていなかったから	4.3
大地震が起こっても、自分や家族は大丈夫だと思ったから	8.1
対策を立てていなくとも、そのときには何とかなると思ったから	18.9
大地震が起これば対策を立てても無駄だと思ったから	13.5
対策を立てようと思っはいたが、その機会がなかったから	20.5
対策を立てようと思っていたが、何をすればいいのかよくわからなかったから	24.9
その他(具体的に)	7.6
無回答	2.2

<全員の方に>

Q18.あなたは今回の地震の前に、想定されている「宮城県沖地震」をご存知でしたか。

(n=379)

知っていた →(Q18-1へ)	90.0
知らなかった →(Q19へ)	9.2
無回答	0.8

<Q18で「知っていた」とお答えの方に>

Q18-1.今回の地震を想定されている「宮城県沖地震」と思いましたか。

(n=341)

想定されている「宮城県沖地震」だと思った	37.2
想定されている「宮城県沖地震」だとは思わなかった	46.6
わからない	15.5
無回答	0.6

Q18-2.今回の地震を通じて、想定されている「宮城県沖地震」への不安は高まりましたか。

(n=341)

非常に不安に思う	58.1
多少不安に思う	37.8
あまり不安には思わない	3.8
不安には思わない	0.3

<全員の方に>

Q19.あなたは今回の地震の被害についてどう思いますか。

(n=379)

被害は大きいと思う	42.2
被害はやや大きいと思う	39.3
被害はあまり大きいとは思わない	14.0
被害は大きいとは思わない	4.0
無回答	0.5

Q20.あなたは今回の地震を通じて、今後、防災の準備をしようと思いますか。

	(n=379)
思う	84.7
思わない	14.5
無回答	0.8

Q21.今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対するご意見やご要望がございましたら、どのようなことでも結構です。ご自由にお書きください。

★アンケートへのご協力ありがとうございました★
★今後とも「KNOTsCLUB」をよろしくお願い申し上げます★

Copyright2003 ASATSU-DK,Inc. All rights reserved.

VI. 自由回答

VI. 自由回答

Q5. 地震当日、誰と連絡を取ったか(その他)

性別	年齢	職業	県	原文
女性	20代	無職の主婦	岩手	実家
男性	20代	勤め(全日)	宮城	職場
女性	30代	無職の主婦	宮城	海外
女性	30代	無職の主婦	宮城	実家の両親
女性	40代	勤め(パートタイム)	宮城	実家

Q9-1. インターネットへの接続方式(その他)

性別	年齢	職業	県	原文
男性	30代	勤め(全日)	宮城	Air+H"ダイヤルアップ
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	自宅のLAN接続
女性	30代	無職の主婦	宮城	リーチDSL

Q17-1. (5月26日以前)地震対策を立てていなかった理由(その他)

性別	年齢	職業	県	原文
男性	40代	勤め(全日)	岩手	岩手県は他県に比べて地盤が固いので地震の影響を受けにくいと認識しているので、当面は噴火の方が心配である。
男性	60代以上	無職	岩手	耐震性のある住宅なので あまり心配していない。
女性	30代	無職の主婦	岩手	大地震について考えたこともなかったから。
男性	10代	学生	宮城	必要が無かった。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	住んでいる所は地盤が固くそれほど揺れは大きくないと思っていたから
女性	30代	勤め(全日)	宮城	対策を立てたほうがいいかなとは思っていたが、実際に大地震が来るような気はしなかったから
女性	30代	勤め(全日)	宮城	親の方でやってくれていると思ったから
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	前の宮城沖地震のときもライフライン以外はあまりこまらなかつたから
女性	30代	無職の主婦	宮城	対策で持ち出し用荷物の整理を一度はしました。でも、普段子供2人と私のみでいることが多く、前回の地震の時も子供二人を抱えて外に出るのがやっとという状況でした。これに荷物なんかもって出ようものなら、ほんとに危険なときはみんな逃げ送れます。大事なものは持って出たいとは思ってはいますが、実際に不可能。

Q17-2. (5月26日をきっかけ)地震対策を立てていなかった理由(その他)

性別	年齢	職業	県	原文
男性	30代	勤め(全日)	岩手	地震前からとっていた対策で十分だった。
男性	40代	勤め(全日)	岩手	思ったとおり震度の割りに影響が小さかった
男性	40代	勤め(全日)	岩手	いろいろ備えをしようとは思うが、目先の生活に追われ、なかなか非常時の備えまでいかな
男性	40代	勤め(全日)	岩手	い。
女性	40代	勤め(全日)	岩手	これまでは大きな被害を経験していないため
女性	10代	学生	岩手	お父さんがやったので自分では何もしなかった
男性	10代	学生	宮城	必要が無かった。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	5月26日のときに何もなかったで、同程度であれば耐えられるし、それ以上であれば、暫定的な対処では間に合わないから
男性	30代	勤め(全日)	宮城	今回の地震ですらほとんど被害がなかった
男性	30代	勤め(全日)	宮城	特にこれ以上は必要ないと思っていたから
女性	20代	勤め(全日)	宮城	すでに対策をしていたので、26日の地震をきっかけとした対策はしなかった。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	5月26日の地震では自分の周りにはなにも被害がなかったし、そんなにすぐに大地震がまた来るとは思っていなかったから
女性	30代	無職の主婦	宮城	17-1と同じ
女性	40代	勤め(全日)	宮城	思いつく対策は実施済みだったので
女性	60代以上	無職の主婦	宮城	いままでに大体のことはやっている

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
男性	10代	学生	岩手	ハザードマップや地震発生後の対応など死者、けが人をひとりでも出さないように今ある制度をもう一度見直してみたい。
男性	10代	学生	岩手	パトロールを増やしてすぐ対応してほしい。
男性	20代	勤め(全日)	岩手	徳にはないが地震後行政の人がパチンコをしていたとか聞くと、それはどうかなと思う
男性	20代	勤め(全日)	岩手	改めて行政の対策が必要と感じられた
男性	30代	勤め(全日)	岩手	手抜き工事がないようにしてもらいたい。
男性	30代	勤め(全日)	岩手	ライフラインの確保強化。避難住民への避難場所での待遇改善。
男性	30代	勤め(全日)	岩手	余震の可能性などもテロップで流してほしい
男性	30代	勤め(全日)	岩手	防災について、連絡体制をもっと密にすべき
男性	30代	勤め(全日)	岩手	危機管理できない地方自治体の首長等お偉い方がいたが、もっと危機意識を持って行動してもらいたい。あと、観音開きの食器棚が結構危険だということがわかったので、アナウンスする必要があると思う。また、ガスが止まっても電話が繋がらず、復旧するまで相当時間が掛かった。復旧の手順などあらかじめマニュアルがあると助かると思う。
男性	30代	勤め(全日)	岩手	地震対策マニュアルのようなものを、各家庭に配ってほしい。
男性	30代	勤め(全日)	岩手	無理かもしれないが地震の予測をしてほしい。
男性	30代	勤め(全日)	岩手	とにかく迅速で正確な情報提供に努めて欲しい。
男性	40代	勤め(全日)	岩手	これだけの地震でも、まだ対策をとっていない人や家庭があると思うので、防災についての報知をしっかりして欲しい。

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
男性	40代	勤め(全日)	岩手	交通機関の正確な情報がほしい。
男性	40代	勤め(全日)	岩手	都道府県の密接な情報交換をして欲しい、市町村ごとに災害状況をHPなどで速報できる体制になると便利だと思う
男性	40代	勤め(全日)	岩手	情報の開示と分析力の向上。臨機応変に自衛隊を派遣できる裁量。ライフラインの復旧力のアップと物資援助のフロー充実。
男性	40代	勤め(全日)	岩手	防災情報を放送しているが、聞き取りにくい改善してほしい。
男性	40代	勤め(全日)	岩手	震度計の無い市町村、正しい設置をしていない市町村があるようだが、こういう行政では防災対策ができるわけが無い。市町村の行政や首長のレベルがあまりにも違いすぎるので国や県が広域的に防災対策を立てて欲しい。
男性	50代	勤め(全日)	岩手	地域の情報を詳しく具体的におしえて欲しい
男性	50代	勤め(全日)	岩手	災害時の電話やインターネットで、速やかに連絡網がとれるようなシステムが、欲しいと思います。
男性	50代	勤め(全日)	岩手	自衛隊の出動が遅すぎるし、人数も少ない。
男性	50代	勤め(全日)	岩手	災害復旧に資金援助を含め全力をあげて欲しい。
男性	50代	無職	岩手	1.地震予知の研究と実践。2.軟弱地盤などの危険地域の周知徹底。3.市町村においては、シミュレーションをするなどの訓練の徹底。4.地震発生時には、市町村ではてんでこ舞いをしてはからず、県では、直ぐに職員を派遣して応援体制を構築することを考えて欲しい。電話などでの情報収集は控えるべきである。
男性	50代		岩手	食料の準備だけはしてほしい。
男性	60代以上	無職	岩手	地域ごとのこまめな情報が欲しい
女性	10代	学生	岩手	地域の避難先の情報などを普段から示してほしい
女性	10代	学生	岩手	特に無し。
女性	20代	自営業	岩手	行政の非難時のフォロー(食料や日用品の支給)なども充実してくれると助かる。
女性	20代	勤め(全日)	岩手	もっと避難場所とかを大々的に公開してほしいです。広報にでもどういふ対策をとったらいのかを簡単にでもいいので載せてもらえれば参考になりますね。
女性	20代	勤め(全日)	岩手	電話会社へ、回線がパンクしないようにしてほしい。非常時に連絡が取れないなんて、まったく意味がない。
女性	20代	勤め(全日)	岩手	地震の被害がおきくならないようにしてほしい
女性	20代	無職の主婦	岩手	早めに情報を伝えてほしい。津波が来たら、どこで地域でどんな被害が出るのかを具体的に、知らせしてほしい。
女性	20代	無職の主婦	岩手	国の対応をもっと早くすべきだと思う
女性	20代	無職の主婦	岩手	特に期待はしない。
女性	20代	無職の主婦	岩手	旦那がいない時間に大きい地震が起きるととても不安。我が家は小さい子供二人を抱えているので、避難するだけでも大変。行政で、避難場所に予め防災準備をした物を入れるロッカーなどを設ければ、持って逃げられなくても大丈夫だから、検討してほしい。
女性	30代	自営業	岩手	被害状況の放送より、被災地の人向けの生活情報などをもっと流すように工夫してほしい。非常持ち出し品リストをインターネットで調べて作ったが、自治体からどんなものをそろえたらいいか、非常時にはどこに行ったらいいかなどのパンフ・チラシなどがもらえれば、地元で即した情報になるとおもう。
女性	30代	自営業	岩手	深夜でもすぐテレビなどで情報を流してほしい。
女性	30代	勤め(パートタイム)	岩手	わからない
女性	30代	勤め(パートタイム)	岩手	余震の情報の%はよくわからない。10%でも震度5は来るし、60%だと来ない というような全くあてにならないものだった。今後もう少しきちんとした情報が欲しい。また今回の地震後の子供達のPTSD(だったかな?)の対応もきちんとして欲しいと思う。
女性	30代	無職の主婦	岩手	テレビでは災害の特にひどい地域のニュースばかり放送され、細かな地域ごとの情報が分からないので、行政は地域ごとの細かな災害情報、避難情報をすばやく知らせるような体制をとってもらいたい。
女性	30代	無職の主婦	岩手	健康者であれば自分でなんとか出来る、という事でも、障害のある方だとそうもいかない事というのもあると思うので、そこら辺をもっときめ細かく対応すべき。
女性	30代	無職の主婦	岩手	地震がおこることを想定して各個人ではどのような準備をしておいたらいいか、具体的に指導してほしい。防災マップを作ってほしい。既に出来ているところもあると思うが、もっと認知させるようにしてほしい。
女性	30代	無職の主婦	岩手	夜でも町内放送で詳しい事を教えてほしい。
女性	30代	無職の主婦	岩手	地震が起きたときに、上から指示がなくなるとも迅速に対応できる体制をとっておいてほしい。避難所にも、もう少しプライバシーが保てるような配慮がほしい。
女性	40代	自営業	岩手	地震防災マップを各地区に配布してほしい。
女性	40代	自営業	岩手	当地方では5月の地震の方が強かったんですが、日数が経つと恐さを忘れかけていました。定期的に地震の対策を呼びかける事が防災対策に一番効果的かと思われます。又、テレビ等で地震発生時に現地の情報を地元の素人さんに問い掛けても要領を得ず、かえって様子が分かりづらくイライラしますので的確に報告できるよう行政に災害時の報道官を設けて置いた方がイイのではないのでしょうか。
女性	40代	勤め(パートタイム)	岩手	市町村ごとの正確な情報が欲しい
女性	40代	無職の主婦	岩手	今回自分の住んでいる所はほとんど被害はありませんでしたが、たぶん次にくる宮城県沖地震はかなりの被害がでると思います。各地に迅速な対応のできる機関を作ってください。特に通信関係の強化を望みます。
女性	40代	無職の主婦	岩手	行政の災害担当者用に、役所の近くに官舎が必要だと思いました。災害時に近くに住んでいれば、災害発生直後に仕事を始められるし、家族がそばにいる方が安心して仕事に集中できると思います。
女性	50代	勤め(全日)	岩手	安全な避難場所の確保。
女性	50代	勤め(パートタイム)	岩手	地震の後に道路が陥没したりしましたが、すぐに対策をしてほしかった。裏道はなかなか直してもらえません。
女性	50代	無職の主婦	岩手	地域にあった具体的な対策を提示してほしい
女性	50代	無職の主婦	岩手	家具などの落下防止用品の紹介、斡旋。被害のひどかった宮城地域へ職員を派遣し今後の具体的な対策をたてる。
女性	60代以上	自営業	岩手	避難する時はすぐ誘導する人が出てくれればいい。
女性	60代以上	無職の主婦	岩手	今回の地震で家族との連絡方法を具体的に決めておく事がとてもたいせつだと思いました

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
男性	10代	学生	宮城	総理や首長が意外にいい加減だと思った。
男性	10代	学生	宮城	とくになし
男性	10代	学生	宮城	なし
男性	10代	学生	宮城	特になし
男性	20代	自営業	宮城	なし
男性	20代	家族従業	宮城	備蓄している水、食料、薬品などが、どのくらいあるのか知りくなった。
男性	20代	勤め(全日)	宮城	とくになし
男性	20代	勤め(全日)	宮城	耐震補強の為の資金援助をしてほしい
男性	20代	勤め(全日)	宮城	5月26日の地震もあり、県・市町村の対応は良かったと思う。また、地震後の処理も的確な対応をしていると思う
男性	20代	勤め(全日)	宮城	特になし
男性	20代	勤め(パートタイム)	宮城	天災はいつどこに起こるかかわからないので、今のできうる範囲の対策をとってほしいです。特にライフラインは守るようにしてほしいです。
男性	20代	学生	宮城	各市町村が収集した情報を県が取りまとめ、各県が取りまとめた情報を国の対策本部が一元管理する指揮系統を作るのが望ましいと思う。これらの情報収集は、できる限りリアルタイムで行なえるようにしたい。そして、これらの情報はホームページを含む、あらゆる手段で公開されるのが望ましい。
男性	20代	学生	宮城	行政の人はまだ危機感が薄いと思うところがある
男性	20代	学生	宮城	地震被害からの復興や、耐震のための補修に補助金をたくさん出して欲しい
男性	20代	学生	宮城	情報をもっと与えてほしい
男性	20代	無職	宮城	こういう時にこそちゃんと税金を役立てて欲しい。国・市町村には政治家はいても「経営者」がいなくて無駄遣いが多すぎる。
男性	30代	自営業	宮城	政府に言いたい。「お見舞い申し上げます」の言葉より支援物資をいらない施設などを立てるよりも今立っている施設などの補強をくだらない物や他国へ援助するより自国のために税金を使ってほしい。ついでに国会で居眠りしている政治家や役所の中でヒマでダラダラしている公務員などをリストラすればかなり税金が浮く。公務員、政治家は給料もらい過ぎ。逮捕された政治家の分や罪を犯して辞めていく政治家に給料や退職金を払っている余裕が今の日本にあるのだろうか?
男性	30代	自営業	宮城	今回は、震源地の隣町の石巻市にある事務所で被災したのだが、電気の復旧が震源の家族の住んでいる矢本町よりも遅かったことが後で分かり、少し不満に思っている。
男性	30代	自営業	宮城	被災者のために臨時のゴミ処分場を設置してもらったのは良かったが、便乗投棄などが起こらないような管理体制を最初からとって欲しい。
男性	30代	自営業	宮城	各自治体のトップが、現地に来るのが遅すぎる。浅野知事と、南郷町。もっと住民が安心できるように危機管理を、トップが示すべきだと思った。
男性	30代	自営業	宮城	電気、水道復旧時間や、こまかい情報をながしてほしい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	大被害の出た地域の地方自治体はもっと素早く国から援助金・補助金を取れる様に動くべきである。便乗詐欺・悪徳商法は徹底的に取り締まるべきだ。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	住宅に対する補償を行って欲しい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	ライフラインが経たれた時の、災害対策マニュアルの配布等
男性	30代	勤め(全日)	宮城	テレビで報道されるような広域な情報ではなく、市町村レベルの狭域情報を流すことのできる手段を講じてほしい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	地震の予知まではいなくても起こる可能性や注意喚起について積極的に情報提供してほしい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	にせボランティアなどの被災者の弱みにつけこむ者を厳しく排除するようにしてほしい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	別になし
男性	30代	勤め(全日)	宮城	特に国の対応が遅すぎる。今でも南郷町や矢本町では避難所生活をしている人もあるので、フォローアップをしっかりやって欲しい。今のままでは不十分。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	詳しい情報をお願いします。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	被災者への援助をしっかりしてほしい
男性	30代	勤め(全日)	宮城	地震後の対応が進化してないと思いました
男性	30代	勤め(全日)	宮城	防災対策を税金で行う
男性	30代	勤め(全日)	宮城	行政機関全体の意識が低いように思う。後手後手に回っているし、もっと地震等の災害に備えを行うべきである。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	災害時は交通や行政の定める法律などは緩和してほしい。人間としてのモラルの範囲内で行動するように呼びかけて欲しい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	地域特例による地震保険などの行政補助があればよい。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	土砂崩れのおそれがある場所は緊急に補強したり、情報を事前から公開しておくべきだと思う。また、ブロック塀は生垣に全面的に交換してその費用などは行政が負担だと思う。生垣だと安全で緑が増えるなどメリットは大きいと思う。
男性	30代	勤め(全日)	宮城	とくになし
男性	30代	勤め(全日)	宮城	地震保険の補助
男性	30代	勤め(全日)	宮城	南郷町の町長「クソッパレ、すぐ辞めろ」
男性	30代	勤め(全日)	宮城	いたずらに情報を流すよりも、日頃からの啓蒙活動や具体的なマニュアルなどを地域自治会を通じて浸透させるなどきめ細かな対応を日頃から行って欲しい。
男性	30代	無職	宮城	学者の言う事は信用しない。余震の確立とか、断層や地震のメカニズムなんかどうでもいい。ここに住んでる人達は、もうそろそろ来てもいい頃という心構えが出来てる。「今年来年あたりあるな」という話しは五月の地震の前からあった。それは学者が言ったのではなく、私を含め普通の人が言っていた。そういう話しの方が当たるんです。今年か来年ありますよ。気象庁なんかどうでもいい。どこの断層でもいい。問題は「揺れるか揺れないか」なんです。
男性	40代	自営業	宮城	住んでいる地域の避難集合場所を再度回覧板等で配布してほしい
男性	40代	自営業	宮城	速やかな仮設住宅、補助金支給などフレキシブルに対応できるように一般市民だけではなく、公の防災体制のより徹底した構築を望む。
男性	40代	勤め(全日)	宮城	危機意識を職員に徹底させて欲しい。中には駆けつけたくないような職員の話や愚痴を言っている人の話も聞いた。これだけの惨事に不謹慎すぎる。懲戒免職にしてもおかしくない。
男性	40代	勤め(全日)	宮城	被害にあった人が何を求めているのかを理解し迅速に対応して欲しい

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
男性	40代	勤め(全日)	宮城	墓石が地震で倒れるとあぶない。墓地にあのような重くてあぶないものを建てる習慣はやめるべきだと思う。
男性	40代	勤め(全日)	宮城	避難所(施設)がどんな感じか心配である。
男性	40代	勤め(全日)	宮城	今回被害を受けた家屋を見るとほとんどが古い建物のように見受けられたので、耐震診断などを積極的に受けるように呼びかけ、補強工事などの融資をしてはどうでしょうか。(すでにそのような制度あるのでしたらすみません)
男性	40代	勤め(全日)	宮城	常に後手後手で使えない。
男性	40代	勤め(全日)	宮城	行政も頑張っていると思う
男性	40代	勤め(全日)	宮城	家屋や土地の危険箇所の把握を早く行って欲しい。
男性	40代	勤め(全日)	宮城	専門に情報を提供してくれ窓口があればと思った。
男性	40代	無職	宮城	できる限り万全の対策を立てて欲しい。
男性	50代	自営業	宮城	ライフライン・インフラの早急な復旧。
男性	50代	自営業	宮城	震源地の周辺におおきな被害がありました。しかし自分たちより大変なところがたくさんある。そうしてじっとガマンして耐えるのを美德としての東北人は、土地と切り離せないにかがある。
男性	50代	勤め(全日)	宮城	行政の対応が少しづつしっかりして来ていると感じます。
男性	50代	勤め(全日)	宮城	古い建物の建て替えをすすめてほしい
男性	50代	勤め(全日)	宮城	特になし
男性	50代	勤め(全日)	宮城	宮城県全体が被害を受けたわけではないので何ともいえない。
男性	50代	勤め(全日)	宮城	特になし
男性	60代以上	自営業	宮城	非常持ち出しの配布、住宅の耐震化の斡旋
男性	60代以上	自営業	宮城	地震対策用品を安価で提供して欲しい。
男性	60代以上	自営業	宮城	被災者が復旧に掛かる費用の一部負担と、融資をお願いしたい
男性	60代以上	自営業	宮城	対策を講じようとしても個人ではどうにもならないことがあるので、もっと積極的に取り組んでほしい
男性	60代以上	勤め(全日)	宮城	地震があったときの、マニュアルをつくってほしい。1なにに、2なににとか、やるべきことを一からおしえてほしい。間違った行動をしないように。
男性	60代以上	無職	宮城	電話がつながらなくて大変困りました。今後の対策に期待します。
男性	60代以上	無職	宮城	被災者への援助をしっかりしてほしい
女性	10代	学生	宮城	避難場所や病院の情報が少ないので日頃から伝えて欲しい。
女性	10代	学生	宮城	電話が不通に帰るのが一番困る。また、電車の中で待たされるのも困るし、復きゅうの時間を早くして欲しい。
女性	10代	学生	宮城	宮城県全体が大きな被害にあったわけではないので、テレビではもっと地域情報をはっきり表現すべきだと思う。
女性	20代	家族従業	宮城	東海地震もいけれど宮城県沖地震の事ももう少し心配してください。と思います。国に対して。何だか宮城県沖地震はあまり相手にされていないように感じます。田舎だからですか。田舎でも大勢の人間が生きてるんですよ。と言いたい。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	NHKなどの報道で市町村の担当者が電話で応答していたけど、落ち着いて状況をしっかり把握している人と、私ではわかりかねます的な人がいて対照的だと思った。一般的に小さい市町村の担当者の人が状況を把握していたように思う。やっぱり小さく小人数の方が連絡が浸透しやすいのかな?とおもった。大きい市町村だと縦割りでまだまだなわばり意識があるのかなあ。みんなで協力して、責任転嫁せず対策してほしい。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	実際地震が起こると、いわゆる行政よりもテレビ等のマスコミの情報に頼ってしまい、また実際にそれ以外のきちんとした行政からの情報は殆ど得られない。行政からの確かな情報を得られる方法を確立すべきでは?マスコミの情報は役に立つのは事実だが、実際地震が発生した地域に住んでいてそれを見ると、単に煽っているようにしか見えない。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	地震が起こりそうな地域にはもっと警鐘を促すべきだと思う。今回は宮城だったけれど、東海なども危ないと思うので、地震予知の研究をもっと国がバックアップして進めるべきではないかと思う。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	今年は日照不足の低温続きで、農作物の不作が予測されているうえに地震の被害に遭われてしまった農家の方への援助を十分にしてほしいです。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	被災地で、避難所生活をしている人でも、仕事に行かなければならない人がいたらしく、避難所で生活し不便で、不安なことやストレスだってあるだろうに、そういう時くらい仕事を休めるような働きかけを行政が企業に対してしても良いのではないかと思った。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	被害を受けた人への援助(金銭的な)を十分にしてほしい。仮設住宅をもっとはやくつくってほしい。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	被災した地域の方々の生活の保障をできるだけして欲しいと思う。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	がけなどの危ないところはすぐに直してほしい。ブロック塀は生垣などにしてほしいです。
女性	20代	勤め(全日)	宮城	地震の地域に放送局からの電話は控えるべき!アナウンサーや局の人は地震の実際の現場がどうなっているか考えたうえで電話しなさいよね!
女性	20代	勤め(全日)	宮城	地震で家屋が半崩壊した家の取り壊しは強制なのに、費用が自己負担なのはおかしい。もっと金銭的補助を出すべきだ。町長が海外視察で不在だったが、町長がいたらと言って何も変わるものではない。町長の不在を大々的に報じて意味がないのではないかな。もっとこれからの非難生活に役に立つ情報を報じるべきである。
女性	20代	勤め(パートタイム)	宮城	家屋を耐震構造にするための補助金を出して欲しい
女性	20代	勤め(パートタイム)	宮城	想定されている宮城県沖地震に向けて、避難場所など、再度、行政より回覧するなどして告知してほしい
女性	20代	勤め(パートタイム)	宮城	地震直後などの安全対策なども知らせて欲しいです。
女性	20代	無職の主婦	宮城	とくにないです
女性	20代	無職の主婦	宮城	自分の住んでいる地域の震度情報を細かく知りたいので、全市町村全ての震度情報などを出してほしい。テレビの速報を見ていると、揺れたのに震度速報が出てないとの程度の地震なのか不安なので。
女性	20代	無職の主婦	宮城	とにかく素早い対応をお願いしたい。
女性	20代	無職の主婦	宮城	住んでいる地域で大きな被害があった場合、どこにどのような方法で連絡をとったら良いのかを明確にしていって欲しい。

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
女性	20代	無職の主婦	宮城	特に無いです
女性	20代	無職の主婦	宮城	情報をわかりやすく伝えてほしい。5月の地震の時には町内の方がパトロールしながら声をかけてくださったので安心した。
女性	20代	無職の主婦	宮城	もし今後、大きな地震があって住宅が倒壊したりした場合、人間と一緒にペットの動物達も一緒に避難することになると思う。人間のケアはもちろんだが、そういった動物達のケアも考えて欲しい。また、人間だけを収容するべき、という人も必ず出てくると思うので、そういった人たちの間にはいるなり、必要な対策をとるなりしてほしいと切に思う。
女性	20代	学生	宮城	地震による二次災害が起きないように対策をしてほしい。
女性	20代	学生	宮城	万が一の為の食料や、プレハブなどをすぐに市民分用意できるように準備してもらいたい
女性	20代	学生	宮城	避難場所が倒壊するという設備の悪さが目立ってます。対応の遅さも気になりました。
女性	20代	無職	宮城	財政の事情でなく、被災者個人の事情を把握してもらいたいです。気象庁の予想もちょっと弱気で発表して欲しいです。断言するみたいない言い方で、信じていた方としては地震が来た時の動揺が大きいです。あと、避難訓練は学校や会社でしかやっていないような気がします。普通に町の人を集めて訓練する場などを設けてもらいたいです。
女性	20代	無職	宮城	特に無い
女性	20代	無職	宮城	地震のデータを毎日出して欲しい。
女性	20代	無職	宮城	もっと具体的な地震の規模などの情報がほしい
女性	30代	自営業	宮城	得にありません。
女性	30代	自営業	宮城	公共施設(学校、市町村庁舎など)の耐震工事をきちんとやってほしい。特に、避難場所になるところは、早めにお願ひしたい。(今回の地震では、町役場や学校が被害を受けているので)
女性	30代	自営業	宮城	自然災害は突然思いもよらない地域・時間・被害の大きさになります。1秒でも早く、1人でも多くの人が少しでも安心できるように行政の方の対応マニュアルの充実を望みます。縦割り・上司の許可・指令などこういった地震災害を受けている時は必要なのかとても疑問に思えます。まだ災害を受け、自宅に戻れない方がたくさんいらっしゃいます。ぜひ、安心して熟睡できるような環境を作っていただきたいです。
女性	30代	自営業	宮城	いい加減な余震の確立発表はやめてほしいです～信じてたらでかいのが来てビックルしました。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	今回、「偽者ボランティア」が出現し、作業を手伝ってから料金請求されたと新聞で読みました。市町村位身の近所でボランティアをまとめて受け付けるなどして偽者を阻止してほしいと思った。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	通信の設備を強化して欲しい。ライフラインの復旧を早くできるようにして欲しい。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	関東大震災にしてもそうだが、こんなに地震大国だというのに、行政の対策が遅すぎるのではないかなと思う。家を補修したくともこの不況でなかなか出来ない人も多数いると思うし、今回宮城県北部で被災し仮設住宅に住む方々のことを思うとひとごととは思えない。何か起きてから対策するというのはおかしいと思う。有事法制より先に地震対策だろと政治家に言いたい。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	家族の安否の確認が確実にできるような体制をとってほしい。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	被害のひどかった地域の被災者の救済を最優先してほしい。特に家が全壊した家庭のための仮設住宅や新たに住宅を建設するための資金援助など。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	地域ごとの避難場所が分からなかったの、細かい情報を地域住民にいち早く知らせたいと思いました。こんな時こそ市町村行政はもっとしっかり仕事をして欲しいです。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	対応の迅速さが欠けていると思う。もっと親身になってもよいのでは?ホームステイ制度など、希望者がいるわけがないと思う。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	耐震調査や防災用品にかかる費用を援助して欲しい。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	宛に角通信手段をなんとかしてほしい
女性	30代	勤め(全日)	宮城	家の耐震診断を行いたい、具体的にどこに相談したらいいの、どのようにしたらいいのかわからない。「タダでやります」という怪しげな業者はよく回ってくるが、タダほど怖いものはないので、お断りしている。以前仙台市で募集していたのを知っているが、すぐに募集枠がいっぱいになったとのこと。もう少し枠を増やすなり、随時受け付けにするなり対処してほしい。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	深夜に第一次地震があったことが幸いして避難準備を整えていた人も多かったが、余震確率発表は全くあてにならず、逆に注意を促すくらいが適切だったのではないだろうか。余震の確率発表値が低かったので安心感をもっていた人達は、大変だったと思うので。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	地震の耐震診断の補助を増やして欲しい。
女性	30代	勤め(全日)	宮城	ライフラインの復旧は、できるだけ急いでやって欲しい。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	特にない
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	地震に対する予備知識などは、割と持っている(全般的に)と思うので、実際起こってしまった時、不安にならないような情報が欲しい。たとえば、震災にあって、家屋などに被害が及んだらした場合、金銭的な面の補助はどのように、どうやって受けられるのか、住む場所は確保できるのか…など。起こったあとの復旧シミュレーションなども行政のほうで、どの程度しているのかわかりませんが、ある程度は必要だと思います。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	実は我家の周辺は、5月の地震に比べると揺れも小さく感じ、被害も全くありませんでした。ただ、全国的にうちの区が「震度5弱」と報道されたため、かなり他地域に住む親戚・知人に心配をかけてしまいました。(未だにうちの区が震度5だったのかわかりません)それに比べて県の沿岸北部の町の方は大変な被害で、死者がでなかった事は幸いでしたが、それでも被害にあった皆さんのお気持ちを思うと、何とも言えない気持ちになります。県は仮設住宅の建設など、いろいろと動き出しているようですが、どうも被災者の要望や思いなどをうまくとらえていないように感じます。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	災害が起きるたびに行政の対応に不満の声が聞こえてくる。現場で体験した人の声だけに、次に役立てて欲しい
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	知事の声に反応する人々がすくなかった。現地の方々の声や気持ちを、ちゃんと汲み取ってください。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	防災用マニュアルのようなもの、たとえば避難場所や用意しておいたほうがいいものをまとめた冊子を作してほしい。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	被災者への援助をしっかりとしてほしい

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	先日、新聞に地震震源の近くの鹿島台町が水道の確保から、仙台市に要請した所散々待たした挙句それを断ったそうです。大きい市は設備も整って何かがあった時優先していただけるのかもしれませんが、本当に困った所は誰が安全を確保してくれるのだろうか?そして、阪神大震災の教訓は生かされるのだろうか?もっと、過去の教訓を生かしてもらいたい。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	被災地の詳しい情報や具体的な地震発生後の行動の仕方など指示をしてほしい。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	来るとわかっている地震の対策を前向きに考えてほしいと思います。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	今回は自分の住んでいる地域は被害がなかったが、実際にこのような自身が起こったときに自分の住んでいる町ではどんなことができるのか(例えば給水や炊き出し等の連絡はどのようにされるのかとか、学校との連絡はどのようにされるのかなど)を具体的に知らせてほしい。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	本当の緊急になったら、行政はあてにはならないと思う。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	家などを建築する際の基準を、地震対策など厳しくして欲しい
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	近所の避難場所などを地図のような形で教えて欲しい。どこが安全な場所なのか、どこが指定の避難場所になっているのか全くわからない。地震についてのプリントなどによる情報が多いにもかかわらず、その点が不明。家屋調査や家具の固定、地震時の行動、非難グッズについての情報ばかりで、これらは一応頭に入っているの。
女性	30代	勤め(パートタイム)	宮城	安全対策を具体的に、示してほしい。何をやっていいのかわからない人たちが多いので!
女性	30代	無職の主婦	宮城	どのような事前対策が必要か明示してほしい
女性	30代	無職の主婦	宮城	地震で壊れた家などの修理や、それまでにかかる費用などをできるだけ国が補償してほしい。県での補償は被害にあった県の負担が大きくなるため。
女性	30代	無職の主婦	宮城	防災の準備をどのようにしていいかわからないので、もう少し詳しく教えて欲しいです。
女性	30代	無職の主婦	宮城	矢本町では、地震の時のごみを収集する際、きちんと分別したり持ってきた人をチェックしなかったため便乗してごみを捨てる人が多発し大変な状態になっています。先の先を読んだマニュアルの作製が必要だと思います。仙台市水道局の給水車が使えなかったのも問題だと思います。今回は偶然に偶然が重なって死者が一人も出ませんでした。宮城県知事がすぐに帰国してくれなかったことは不満です。郡部だから大丈夫と思ったのかもしれませんが、宮城県民は仙台市民だけではないのです。
女性	30代	無職の主婦	宮城	避難場所の施設や食料は十分なのか心配。
女性	30代	無職の主婦	宮城	地震がおきる前に、危険な建物などのチェックをしておいて欲しい。避難所生活の改善。
女性	30代	無職の主婦	宮城	地震の前兆となる何らかの変化があった場合はパニックにならない程度に一般市民にも知らせてほしい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	地震があらかじめ分かればうれしいです。
女性	30代	無職の主婦	宮城	対応が遅すぎるので今までの事例に基づいて行動するのではなく事例がない事柄にも敏速に判断して対応してほしい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	もう少し正確な情報を迅速に発表してほしい。最初の発表は被害状況を把握しにくいと思うが、今回は最初の発表では被害は少ないと発表されたが実際は震源地付近の被害が大きかった。余震の発表が10%以下と発表されたので、そんなに大きいのは起こらないと思っていたら翌朝かなり大きい地震が起きた。しかも寝ていた所に起きたので想像以上に怖かったし、前夜の地震より揺れが大きかった。余震の情報はいくつも正確に伝えて欲しい。不安で洋服を着た状態で寝床に着くが眠れなかった。
女性	30代	無職の主婦	宮城	具体的な対策としてどのようなことをしたら良いか、どのようなものをどれくらい準備しておくか、良いのかなどの情報を、わかりやすく知らせて欲しい。県政だよりなどと一緒に保存版の小冊子などを各家庭に配ったりしても良いのではないかなと思う。
女性	30代	無職の主婦	宮城	家が倒壊した方への補助金の額をもっと上げてほしい。全壊で100万では何もできないと思います。
女性	30代	無職の主婦	宮城	子供の小学校の体育館が1ヶ月以上使用できませんでした。やっと直ったときにまた地震!!今回被害は少なかったようですが、公共施設の整備をもっと充実してもらえて安心できるようにしてほしいです。何かあったときに使用できるのは公共施設だと思いますので。。。
女性	30代	無職の主婦	宮城	特になし
女性	30代	無職の主婦	宮城	私の家は外壁や二階の部屋、階段、一階の風呂場の亀裂などがありましたが、屋根までには至りませんでした。食器類、電気のかさ、レンジが壊れるなどしましたが、こんなのは軽いほうだと思います。大変なお宅では、家が全壊から、半壊までさまざまです。青いシートが屋根に掛かっているお宅が多くとても目立っています。比較的、町の対応が早く、個人宅ごとにつけられているスピーカーによって、情報も早く、県や国からも視察に来て頂いているようですが、一刻も早い被災している方への、住宅問題や融資問題に全力を尽くしてほしいと思います。
女性	30代	無職の主婦	宮城	家の片付けなど、個人的な復旧作業も手伝ってもらえるような仕組みを作ってほしい(お年よりや母子家庭など力のない人だけでいい)
女性	30代	無職の主婦	宮城	もう少し地域情報が欲しい
女性	30代	無職の主婦	宮城	緊急時の縦横の連絡を密にして、住民の不安を少しでも和らげるよう、心を砕いていただきたい。断水の続いた被災地に供給する水の件で、支援を要請された市と町の間でトラブルがあったと聞いている。不手際のないように対策をきっちり立ててもらいたい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	最低限ライフライン(水道が3日にわたって出なかった地域があった)は、滞らないようになれば良いです。数年前の宮城県沖地震のときに比べれば、不便がなかったと思いますが、県知事、被害の大きかった南郷町その他の方へ代理を任せて帰ってくればよかったのに。浅野知事は、評判の良い知事さんでしたのに、今回は、駄目ダメこれでもかなり票を落とした事でしょう。まったくはすかしい限りです。まったく危機管理に対して、今まで何人もの知事や国会議員が茶番を演じてきていたのに、教訓になっていません。いつになったら気づくのでしょうか。学習しない方たちです。全壊の方々への補助金。まったく笑えます。100万の補助で家は、いまだに家は建てられません。財政赤字なら、あんたらの出張費減らせ!!この地域は、老人が多いので、災害での死亡者はいませんが、これからどうやって生活して行けばよいのでしょうか。これからは自殺者は、増えていく事でしょう。言い出したらきりがなく、怒り心頭です。もっと言いたい事は、山ほどありますが、この辺で止めます。国も、こういうときこそ、全額負担で、家を建ててあげて欲しいです。他人事に済ますなっつうの!!にこういうことに使うのだったら私達は、怒りません。家が倒壊しても安心して暮らせる国になって欲しい。

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
女性	30代	無職の主婦	宮城	私の住む地域では、想定されている宮城県沖地震の起きる確立は高いのだが、今回の地震に関しては、全くといってよいほど被害は及ばなかった。だが、同じ県内の一部の地域では死者がでなかったものの、本当に悲惨な被害を受けているのを見ると、自分は何事もなく良かった などという心境ではない。被害の特に大きい人に関しては、税金や学費を安くするなどという程度ではなく、全額免除というくらいにして欲しい。市や町で手に負えない事項に関しては県や国が介入し、自然災害に関しては、被災者に自助努力などをしたりせず、いろいろとやってあげて欲しい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	宮城県の浅野知事は、日ごろから国に対して、積極的に働きかけをしていると思います。防災の準備や、意識を高めたと思います。
女性	30代	無職の主婦	宮城	避難所や、万一の災害の時に自治体から受けられるサービスや、個人で対策しておいたほうがいい事柄、災害に遭った際にとるべき行動について、周知を図ってほしいです。たとえば避難所等は調べればわかるだろうとは思いますが、具体的に何を調べればいいのかぴんとこないの、各家庭に配布するなどしてほしい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	私が住んでいるところは幸い大きな被害はありませんでしたが、震源に近い地域での被害状況を見ると、大地震が想定される土地にしては、公共の建物のお粗末さが目に付きました。田舎だからあの程度で済んだ、という気もします。地方自治体での対策の強化、そういった自治体への国の支援が必要ではないでしょうか。まだまだ不自由な生活を強いられている方、今後の生活への不安を抱えている方がたくさんいらっしゃるのに、高校野球の始球式などではしゃいでいるこの国の首相には腹が立ちました。甲子園より他に行くべきところがあるのではないのでしょうか。。
女性	30代	無職の主婦	宮城	国ではもっと地震対策に力を入れてほしい。地震予想ももっとも当たらないので、早急に研究を進めてほしい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	電気、水道の復旧時間など細かな情報をおしえてほしい
女性	30代	無職の主婦	宮城	国民の不安を少しでも減らせることができるよう、お願いいたします。
女性	30代	無職の主婦	宮城	正確な地震情報を瞬時に伝えて欲しい。避難勧告の判断を早く出してほしい。今後の余震情報やそれに対する準備など(自分たちがすべきこと)を伝えて欲しい。
女性	30代	無職の主婦	宮城	今回は地震だけでなく、梅雨時期の降水量も関わっているのに対してそれに対応できる行政であって欲しい。
女性	30代	無職	宮城	次回起こりうる宮城県沖地震は、今回の地震より、さらに被害が大きいのと考えられるが、行政が、家屋の耐震対策についてまったく補助を行ってこないというのは、大変、困っている。うちは特に古い家なので、今回の地震で完全に倒壊すると思うのが、年金生活者であるため、立て替え等の抜本的対策がとれない。県民市民の命を守るのが、行政の義務であると考えてるので、早急に対策を検討し、実行してもらいたいと切に願っている。
女性	40代	自営業	宮城	家族が離れているときに地震がおきることが心配です。(特に子供)。学校の校舎は安全なのか、地震が起きたとき学校はどのような措置をとるのか発表してほしい。
女性	40代	自営業	宮城	被災後の生活について少しでも不安要素が解消されるよう、物資面だけではなく金銭面からの補助をして欲しい。年金だけで生活している年寄り等についての対策を考えて欲しい。
女性	40代	勤め(全日)	宮城	宮城県沖地震の正確な情報を積極的に知らせてほしい
女性	40代	勤め(全日)	宮城	地震直後の対応を早くできるようにしてほしい
女性	40代	勤め(パートタイム)	宮城	地震は近い将来・・・そう思う・・・不安です。でも・・・心の奥底には本当に・・・???と疑いもあります。天災なので・・・どう物事を考えるべきなのかさえよく分かっていないのが・・・本音なのか・・・
女性	40代	勤め(パートタイム)	宮城	この地域は、あまり情報量が多くないので、対策をもう少し練ったほうが良いと思いました。
女性	40代	勤め(パートタイム)	宮城	被災された方に、もっと援助の手を!!
女性	40代	勤め(パートタイム)	宮城	災害を受けた人に対して公共料金の免除や、融資をするのはいいと思う。しかし、水道局では給水がうまくいかなかったというのはひどいと思う。宮城県にいて思うのは公共料金が他の県と比べて異様に高い。だったら、それなりの管理とサービスを徹底するべき。知事や町長がブラジルにいてすぐ帰ってこなかったというのお話にならず、だから宮城県は厚生労働省出身の知事にしかかわらず、日本一福祉のなっていない県だと痛感した。
女性	40代	勤め(パートタイム)	宮城	忙しい役場などに何度も取材の電話を入れ放送するのはおかしい。
女性	40代	無職の主婦	宮城	予想は、できる限り教えて欲しい。今回の起こる確率10%未満は雨の降る確率と同じ感覚でいたのではと考えると考えられなかった。
女性	40代	無職の主婦	宮城	避難場所になっている学校の耐震設備をもっとしっかり検査し、安全な物にして欲しい。
女性	40代	無職の主婦	宮城	テレビ報道のあり方ですが、大変な地域の役所の方への取材は不要。仕事を増やすだけだと感じた。また、何度も被害の状況を繰り返すより、交通情報や停電/断水情報などは、文字で常時画面に映しておいてほしい。また、何か周りでできることを伝えてほしい。
女性	40代	無職の主婦	宮城	ライフラインの復旧を早くしてほしい。
女性	40代	無職の主婦	宮城	正確な情報が早く欲しいと思う。
女性	40代	無職の主婦	宮城	仮設住宅など無料で利用できたら良いと思う。
女性	40代	無職の主婦	宮城	宮城県地震は30年以内に99%の確率で来ると覚悟しています。今回、南郷町・鳴瀬町のあたりが被害にあわれましたが、その際宮城県知事を始め、南郷町の首長も外遊していたのですね。知事が先に帰国し、南郷町長はさらにその後日の帰国でしたが、特に町長の対応があまりに脳天気を感じられ、呆れました。日程等により致し方なかったのかもしれませんが、自らが管轄する自治体の危機なのですから、より早い帰国をすべきだったと思います。このような姿勢では、更に大きな災害が起きた際のリーダーシップ等に不安が募ります。首長の立場にある人達には、一層の自覚と危機管理能力の向上を要望します。
女性	40代	無職の主婦	宮城	東海沖地震のみ、予測できると発表していましたが、これだけ確実視されている宮城県沖地震については何故、予測対策ができていないのでしょうか。不公平だと思います。また、子供が国立小学校にかよっていますが、校舎が古すぎてとても心配です。いくつの地震まで耐えられるのかもっと公の立場で公表して欲しいです。
女性	40代	無職の主婦	宮城	町内ごとに防災対策は、常日頃からすべきだし、町内の方々と知り合いになっておく必要を感じた。ただ、転勤族の我が家のような、こうして宮城県にくる方たちのために安心して行なえる防災のノウハウ本を転居と同時に配布すべきだと思った。
女性	50代	勤め(全日)	宮城	家の補強の仕方などを印刷物等で教えて欲しい。
女性	50代	勤め(全日)	宮城	仙台市内のすべての小中高の校舎の耐震診断を行い、耐震工事が必要な学校すべてにすぐ工事を行うべきだ。宮城県沖地震は必ず起こるのだから、財政が苦しくても、最優先で行うべきだ。

Q21. 今回の地震を受け、国、県、市町村など行政に対する意見や要望

性別	年齢	職業	県	原文
女性	50代	無職の主婦	宮城	自治体の対応の遅れがないようにして欲しい。
女性	50代	無職の主婦	宮城	地震予知にもっと本腰を入れてもらいたい。
女性	60代以上	自営業	宮城	災害時の避難場所の確保や地震時の対策など、行政にもっとしっかりしてもらいたいです。現状のままではとても不安です。
女性	60代以上	家族従業	宮城	まずは自分で行動を起こそうと思う
女性	60代以上	勤め(パートタイム)	宮城	市民への情報提供をスムーズにして欲しい
女性	60代以上	無職の主婦	宮城	家が全壊してしまった人たちに早く対処をしてほしい
女性	60代以上	無職の主婦	宮城	災害が起こったら、すぐ援助金などの対策をたててほしい
女性	60代以上	無職の主婦	宮城	被害にあった人達への援助を積極的にしてあげて欲しい。
女性	60代以上	無職の主婦	宮城	気軽に地震対策の相談に乗ってくれて、やり方も指導してくれる機関があれば良いとおもいます。
女性	60代以上	無職の主婦	宮城	特に思いつかず
女性	60代以上	無職	宮城	被災者への援助をしっかりしてほしい

付 KNOTs の案内



～インターネットマーケティングシステム～

<http://www.surece.co.jp/src/service/knots.cgi>

スタート以来 1,500 件の本格的調査を受注!

KNOTs は精度の高さでオンラインリサーチ業界をリードしています。

ここが違います・・・KNOTs のメリット

■全国 9 万人の独自モニター組織

家族会員制度により、子供からお年寄りまで偏りの少ないパネル構成を実現。的確なポイント報酬やサポートサービスにより、会員との高い信頼関係を維持。また、会員登録情報は定期的に更新、データベースの鮮度を維持しています。個人情報の保護がより一層厳しく求められているIT社会だからこそ、会員からの信頼度を第一とするKNOTs リサーチは、その真価を大いに発揮していきます。

■1,236 通りの条件から最適なターゲットをピンポイント抽出

1,236 通りに及ぶ深いモニター属性条件から調査に最適なターゲットを正確に選び出す事ができます。属性にない条件のターゲットも、クイックファインド(スクリーニング調査)で簡単に見つけ出す事ができます。

■豊富な調査実績

1997 年の事業開始以来、得意先として各業界のリーディングカンパニー150 社以上から 1,500 件を超える要求基準の厳しい本格的調査を受注し、高い評価と信頼を得ています。調査内容も IT 関連から食品、トイレットリーに至るまで幅広い分野をカバー。「ブロードバンドサービスの利用意向」調査をはじめ、従来の面接調査では聞けなかった「未成年者の喫煙経験」「低用量ピルの使用実態」といった個人のプライバシーに関わるテーマについても、生活者の本音を聞いています。

■欧州 KNOTs2002 年 3 月正式稼働

KNOTs は世界初のオンラインによるグローバルな調査サービスを実現しました。2002 年 3 月よりヨーロッパ 6 カ国(英、独、仏、西、伊、蘭)全域をカバーする欧州 KNOTs がサービスを開始。さらに 2003 年中にはアジアでもサービスを開始予定。また、米国のオンラインリサーチ会社との提携により、相互の受発注が可能となっています。多言語による同一クオリティの調査を、地球規模で、同時に、どこよりも早く、しかも安価に実施することが可能となりました。

KNOTs に関するお問い合わせ

株式会社サベイリサーチセンター マーケティング部 オンラインリサーチグループ

〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10 TEL. 03-3802-6719 FAX. 03-3802-6738

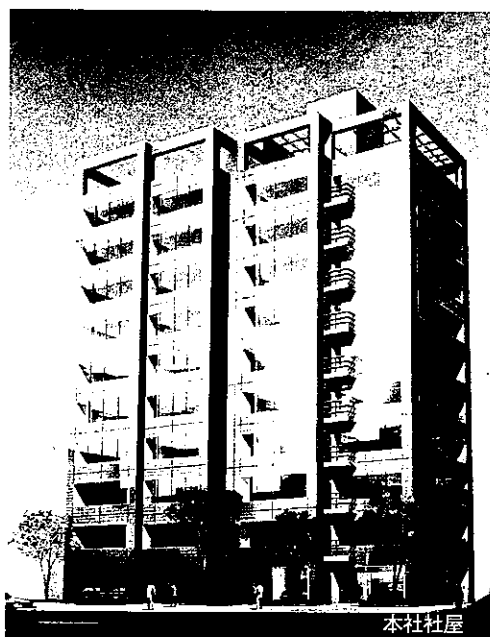
提携先:(株)アサツー ディ・ケイ インタラクティブメディアセンター デジタルデザイン局 KNOTs 事業グループ

データベース及びシステムの運営・管理は(株)アサツー ディ・ケイが行っています。

付 サーベイリサーチセンターの業務案内

会社概要

商 号 株式会社サーベイリサーチセンター
 設 立 昭和50年2月
 資 本 金 6,000万円
 年 商 48億円（平成14年度）
 代 表 者 代表取締役 藤澤士朗
 社 員 数 164名
 顧 問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）
 取引銀行 三井住友銀行 赤羽支店
 百十四銀行 東京支店
 みずほ銀行 尾久橋支店
 東京三菱銀行 日暮里支店
 UFJ銀行 上野支店
 商工中央金庫 押上支店
 所属団体 (財)日本世論調査協会
 (社)日本マーケティングリサーチ協会
 (社)日本マーケティング協会
 (社)交通工学研究会
 (社)環境科学情報センター他
 その他 ISO9001認証取得
 プライバシーマーク付与認定
 建設コンサルタント登録

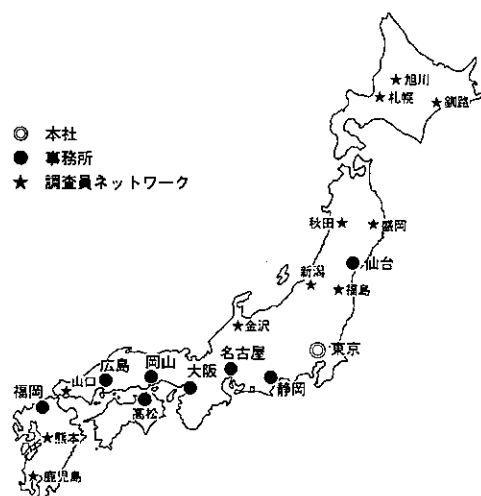


本社社屋

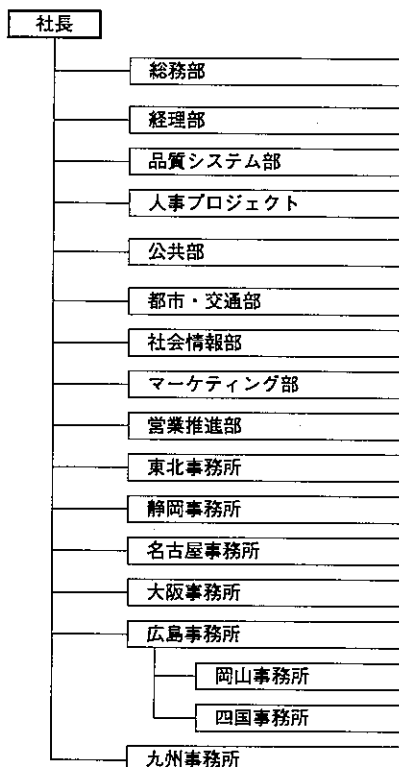
沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立
 昭和51年6月 大阪事務所開設
 昭和54年1月 静岡事務所開設
 昭和61年9月 名古屋事務所開設
 昭和63年4月 本社社屋竣工
 平成2年4月 東北事務所開設
 平成4年1月 広島事務所開設
 平成5年6月 資本金を4,000万円に増資
 平成9年3月 本社社屋増築
 平成9年4月 九州事務所開設
 平成10年4月 岡山事務所開設
 平成12年7月 資本金を6,000万円に増資
 平成15年4月 四国事務所開設

Network



組織図





©朝日新聞社 2003年
〒104-8011 東京都中央区築地5丁目3番2号
朝日新聞東京本社
電話 03-3545-0131

5月の宮城県沖の地震
(最大震度6弱) 体験者
のうち、約半数はその後
も全く対策を取ってい
ないことが、民間調査社
のアンケートでわかっ
た。調査実施は8月8
11日、直前の7月26日
には宮城県北部を再度地
震が襲った。次の本格的な
宮城県沖地震までにきち
んと対策に取り組まな
いと危険だ」と専門家は警
告している。

宮城県沖 5月の地震 体験者の半数が 「以後対策取らず」

調査したのは、サーベ
イリサーチセンター(本
社・東京都荒川区)。5
月の地震の揺れが強かつ
た宮城県と岩手県に住む
同社のモニター464人
を対象に、インターネット
を通じて調査。回収率
は82%だった。
5月の地震をきっかけ
に何か対策をとってい
か尋ねる質問に、最も多
かった回答は「特に何も
しなかった」の49%。2番
目は「危ない家具や品物
を固定整理した」の25%
だが、地震以前に固定・整
理していた人と合せて
も半数に満たなかった。
何もしなかった理由と
しては、「何をすればよ
いかわからなかった」
「機会がなかった」 「何
とかなると思うた」など
の回答が多かった。
中村功・東洋大助教授
(社会心理学)は「7月
の宮城県北部の地震でも
幸い死者がいなかったた
め、油断を生んでいない
か気になる」と話してい
る。

油断大敵

「木造住宅の4軒のう
ち3軒は耐震性に不安」
――。全国の工務店など
で作る日本木造住宅耐震
補強事業者協同組合(東
京都港区、小野秀男理事
長、600社)が00-03
年に実施した耐震診断
で、こんな実態が浮かひ
上がった。同組合は00年
から診断結果を公表して
いるが、傾向は変わって
いないという。

在来工法の木造住宅 「耐震性に不安」 4軒のうち3軒

在来工法の木造住宅(平
均築年数約24年)のう
ち、49%が大地震で倒壊
の危険があり、やや危険
の住宅を加えると73%は
耐震性に不安があった。
建築基準法の耐震基準
が強化された81年以降の
建物と80年以前の建物を
比べると、旧基準の建物
は「倒壊の危険あり」が
約63%に上り、「やや危
険」を加えると85%にな
った。
一方、81年以降の新しい
以下を希望している。

い建物も「倒壊の危険あ
り」が34%に上り、「ち
や危険」を含むと80
%に耐震性に不安があつ
た。新しい耐震基準の建
物でも、壁の配置の悪さ
などが耐震性を損ねてい
る例が目立ったという。
耐震診断を受けたもの
の、その後補強をしない
人も多い。理由のトップ
は「経済的な理由」。同
組合による同時期の耐震
工事の平均費用は約1
3万円だったが、調査で
は多くの人が100万円
以下を希望している。

河北新報

河北新報社
 社址: 青島市市南区五洲一路1-2号
 (電話: 860-8800)

三陸南地震発生直後

携帯不通「5割強」

五月十六日の三陸南地震の発生直後から三時間ほど、通話を試みた携帯電話の回線は、一般加入電話の四割がつかない状態だったが、総合調査会社「サーベイサー」によると、一般加入電話が「サーベイサー」でつながり始めたのは、地震発生から約三時間後だった。この間、携帯電話の回線は、一般加入電話の四割がつかない状態だったが、総合調査会社「サーベイサー」によると、一般加入電話が「サーベイサー」でつながり始めたのは、地震発生から約三時間後だった。

一般加入電話も4割

民間調査会社まとめ

備える

宮城沖・大地震

調査は、三陸南地震発生直後の五月十六日の午後三時から、調査員が被災地へ入り、被災者の状況を調査した。被災者の多くは、携帯電話がつかない状態だった。被災者の多くは、携帯電話がつかない状態だった。

情報通信体制強化を

被災地では、一般加入電話がつかない状態だったが、携帯電話がつかない状態だった。被災者の多くは、携帯電話がつかない状態だった。被災者の多くは、携帯電話がつかない状態だった。

被災地では、一般加入電話がつかない状態だったが、携帯電話がつかない状態だった。被災者の多くは、携帯電話がつかない状態だった。被災者の多くは、携帯電話がつかない状態だった。

静岡新聞

ネット「災害に強い」

被災地調査 情報伝達に有力

三陸南地震発生直後、被災地調査の結果、被災地の状況が明らかになった。被災地の状況が明らかになった。被災地の状況が明らかになった。

被災地の状況が明らかになった。被災地の状況が明らかになった。被災地の状況が明らかになった。

被災地の状況が明らかになった。被災地の状況が明らかになった。被災地の状況が明らかになった。

防災、防災計画関係の実績一覧

平成 15 年 9 月

防 災

阪神・淡路大震災に関する調査<第1回目>	自主企画調査	7 年
阪神・淡路大震災に関する調査<第2回パネル調査>	自主企画調査	7 年
阪神・淡路大震災に関する調査<第3回パネル調査>	自主企画調査	9 年
芸予地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13 年
静岡県中部地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13 年
5月26日「宮城県沖の地震」についてのインターネットモニター調査	自主企画調査	15 年
7月26日宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査	自主企画調査	15 年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査	防災科学技術研究所	14 年
雲仙・普賢岳災害と放送についてのアンケート調査	NHK放送文化研究所	3～6 年
鹿児島水害についての調査	(財)砂防・地すべり技術センター	5 年
地震防災についてのアンケート調査	NHK放送文化研究所	5 年
防災と地震情報の住民意識調査(奥尻島)	NHK放送文化研究所	5 年
大規模公園における災害警報に関する調査	東京大学社会情報研究所	5 年
北海道南西沖地震に関するアンケート調査	東京大学社会情報研究所	5 年
阪神大震災に関する住民意識調査	NHK放送文化研究所	6 年
阪神大震災における住民の避難行動調査	朝日新聞社	6 年
阪神大震災住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	6 年
阪神大震災における被災者の生活と意識に関する調査	NHK放送文化研究所	7 年
仮設住宅居住者の意識と実態についての調査	朝日新聞社	7 年
震災ボランティア活動に関するアンケート調査	朝日新聞社	7 年
住民の対応と情報の伝達についての調査―神戸・宝塚市編―	東京大学社会情報研究所	7 年
住民の対応と情報の伝達についての調査―西宮・芦屋市編―	東京大学社会情報研究所	7 年
阪神大震災2年後の住民意識調査	朝日新聞社	8 年
阪神大震災後の仮設住宅居住者意識	朝日新聞社	8 年
消防団員の公務災害・健康増進についての調査	消防基金	9 年
阪神大震災3年後の住民意識調査	朝日新聞社	9 年
過密空間における人間行動意識に関する調査	東京大学社会情報研究所	9 年
消防団員の安全教育・訓練に関する調査	消防基金	10 年
帰宅難民対応についての事業所調査	東京大学社会情報研究所	10 年
大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	10 年
平成10年8月集中豪雨災害についての調査	東京大学社会情報研究所	10 年
災害弱者に関する調査	文教大学	10 年
防災についてのアンケート調査	文教大学	10 年
地下街利用者の災害に関する意識調査	(財)河川情報センター	11 年
砂防施設計画検討調査	(財)砂防・地すべり技術センター	11 年
消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査	消防基金	11 年
河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査	東京大学社会情報研究所	11・12 年
東海村臨界事故時の行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	11 年
東京都「広域避難所」の管理体制についての調査	東京大学社会情報研究所	11 年
防災用語についてのアンケート	東京大学社会情報研究所	11 年
活断層長期予測デルファイ調査	(財)地震予知総合研究所	12 年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査	(財)日本気象協会	12・13・14 年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	NHK放送文化研究所	12 年

有珠山避難者アンケート調査	NHK放送文化研究所	12 年
災害写真データベース作成	東京大学	12 年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査	東京大学社会情報研究所	12 年
東海水害被災者調査	東京大学社会情報研究所	12 年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	12 年
気象情報に関する満足度調査	気象庁	13・14 年
災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13 年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13 年
自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13 年
「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査	東京大学社会情報研究所	13 年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年
BSE(狂牛病)についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年
芸予地震に関する住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年
富士山噴火住民アンケート	東京大学	13 年
自治体の火山噴火についての地域防災計画書調査	東京大学	14 年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査	東京大学	14 年
災害や事故が社会生活に与える影響調査	東京大学	14 年
富士山噴火による企業影響調査	東京大学	14 年
安全観についての住民意識調査	東京大学	14 年
北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14 年
東京都民の防災に関するアンケート調査	NHK報道局	14 年
街頭設置消火器実態調査	東久留米市	12 年
東海地震についての県民意識調査	静岡県	3・5・7・9・11・13 年
民間事業所の地震防災応急対策調査	静岡県	3・5・7 年
自主防災リーダーマニュアル作成	静岡県	8 年
静岡県職員アンケート	静岡県	8 年
家具の耐震技術アンケート調査	静岡県工業技術センター	8 年
地域防災アンケート	静岡県	10・14 年
静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート	(財)静岡総合研究機構	13 年
防災についての市民意識調査	浜松市	7 年
災害情報に対する民間企業の対応調査	東京大学	14 年
住宅防火対策に関する住民意識調査	名古屋市	5 年
救急業務に係る住民意識調査	名古屋市	6 年
防災セミナー受講者アンケート調査	名古屋市	6 年
震災5年後意識調査	NHK大阪局	11 年
災害に関する市民意識調査	三田市	7 年
防災に関する市民意識調査	岡山市	7 年

防災計画

地域防災計画策定	波崎町	8 年
地域防災計画策定	豊富村	9 年
東海地震についての防災講演会企画運営	静岡県	7 年
地域防災計画修正	掛川市	12 年
防災計画策定	河津町	7 年
地域防災計画策定	伊豆長岡町	8 年
防災パンフレット作成	伊豆長岡町	9 年
地域防災計画修正	伊豆長岡町	14 年
地域防災計画策定	修善寺町	8 年
防災キャンペーンイベント企画運営	土肥町	7 年
防災計画策定	土肥町	7 年
防災マニュアル策定	土肥町	8 年
地域防災計画策定	榛原町	8・13 年
域防災計画修正	榛原町	14 年
地域防災計画修正	吉田町	12 年
地域防災計画策定	金谷町	8 年
地域防災計画策定	水窪町	8 年
地域防災計画策定	舞阪町	8 年
地域防災計画策定	細江町	8 年
地域防災計画策定	東郷町	13・14 年
地域防災計画等修正	甚目寺町	14 年

7月26日 宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査

平成15年9月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本社) 〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10

TEL 03-3802-6711 (代)

FAX 03-3802-6730

(社会情報部) TEL 03-3802-6718

FAX 03-3802-6731

本書の記載内容の無断転載を禁ず。

なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、

社会情報部 中島宛 (E-mail : naka_r@surece.co.jp) にお申し出下さい。



株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

本社
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号 〒116-8581
TEL : (03) 3802-6711 (大代表) / FAX : (03) 3802-6730

東北事務所
仙台市青葉区二日町11番11号 〒980-0802
TEL : (022) 225-3871 (代) / FAX : (022) 225-3866

静岡事務所
静岡市呉服町1丁目6番11号 〒420-0031
TEL : (054) 251-3661 (代) / FAX : (054) 252-6544

名古屋事務所
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号 〒450-0002
TEL : (052) 561-1251 (代) / FAX : (052) 561-1254

大阪事務所
大阪市北区天満橋1丁目8番30号 〒530-6011
TEL : (06) 4801-9231 (代) / FAX : (06) 4801-9233

岡山事務所
岡山市大供2丁目1番1号 〒700-0913
TEL : (086) 226-8031 (代) / FAX : (086) 226-8030

広島事務所
広島市中区鉄砲町9番10号 〒730-0017
TEL : (082) 227-7511 (代) / FAX : (082) 227-7558

四国事務所
高松市塩屋町8番1号 〒760-0047
TEL : (087) 811-2671 (代) / FAX : (087) 821-0933

九州事務所
福岡市博多区博多駅前3丁目30番26号 〒812-0011
TEL : (092) 411-8811 (代) / FAX : (092) 411-8851

ホームページ <http://www.surece.co.jp/>